

日本百科全書

ENCYCLOPEDIA
NIPPONICA
2001

2
いーう

小学館

ENCYCLOPEDIA
NIPPONICA
2001

日本大百科全書 2

©SHOGAKUKAN 1985

昭和60年2月20日 初版第一刷発行

定価 7,800円

編集著作 相賀 徹夫
出版者

発行所 小学館

郵便番号 101

東京都千代田区一ツ橋 2-3-1

振替 東京 8-200 番

電話 編集・東京 03-230-5620

業務・東京 03-230-5333

販売・東京 03-230-5763

印刷所 凸版印刷株式会社

本文 (特抄百科用紙) 王子製紙株式会社

口絵 (特抄アート紙) 三菱製紙株式会社

表紙 (特製クロス) ダイニック株式会社

製本 凸版印刷株式会社
若林製本株式会社

* 本書に掲載した日本関係地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図、5万分の1地形図、20万分の1地勢図を使用したものです。

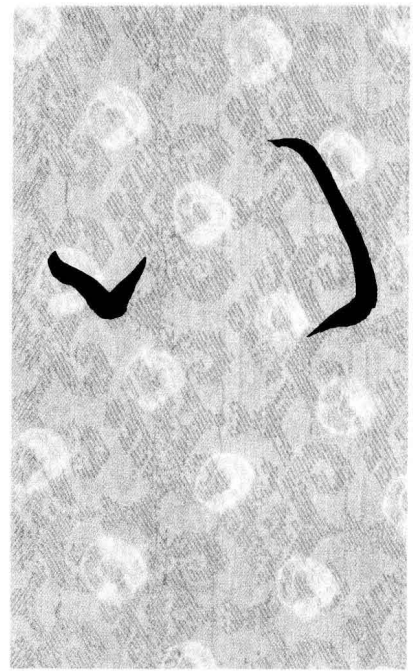
水路図誌複製「海上保安庁承認第5900111号」。

* 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら、おとりかえいたします。

* 本書の内容の一部または全部を、無断で複写複製(コピー)することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版者の権利の侵害となりますので、その場合はあらかじめ小社あて許諾を求めてください。

Printed in Japan

ISBN4-09-526002-5



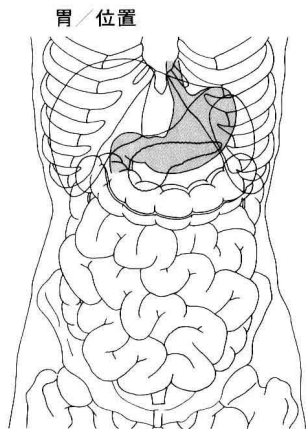
平仮名〔以〕以以以以
片仮名〔伊〕伊伊伊伊
イ (偏から)

五十音図第一行第二段の仮名。平仮名の「い」は「以」の草体から、片仮名の「イ」は「伊」の偏からできたものである。万葉仮名では「伊、以、異、夷、已」(以上音仮名、射(訓仮名)などが使われた。ほかに草仮名としては「伊(伊)」「移(移)」「意(意)」などがある。音韻的には五母音の一つ「i」核にあたり、前舌狭母音である。イ段長音の引き音節部分を表し(「おにいさん」「おじいさん」)、また「クイーン」「パーティー」「フィルム」などのように、外国語を表記する際に小文字で添えられるもする。

古くワ行の「ゐ」「ヰ」はこれと別音で、^ミをを表した仮名であり、「ゐ」は「為」の草体から、「ヰ」は「井」の字形変化したものである。万葉仮名では「韋、位、偉、為、委」(以上音仮名)、井、猪、居(以上訓仮名)などが使われた。ほかに草仮名としては「ゐ(委)」「ゐ(遺)」などがある。

イ イイグサ
亥 い 十二支の第一二番目。「いのしし」が「がい」ともいい、十二支獣としてイノシシがあらわれる。一〇月の異称として用いられ、この月の上の亥の日は、とくに「亥の日」といい、炬燵を開き、「亥の子餅」(「玄猪」ともい、江戸の民間では牡丹餅)を食べて無病息災や、イノシシの多産にあやかって子孫繁栄を願う風習があるが、これはきたるべき冬に備えての行事とみてよい。時刻としては、今日の午後一〇時を中心とした前後二時間を、「亥の刻」「亥の時」といった。方角としては、北から西へ三〇度寄った方角をいい、北北西にあっている。

胃 い 消化管を通じてもともと膨らんだ部分で、食道と十二指腸(小腸)との間に位置する。
〔胃の形状〕ヒトの胃の形状や大きさは一定ではないが、上部が大きく広がり、長軸が左上後方から右下前方に向かう囊^{かぶ}というのが標準的である。内容物が空のときは前後に扁平な囊であるが、内容物が充滿しているときは、直立位でも坐位でも鉤形^{かぎがた}をしている。死体解剖時での胃の形状は、筋肉の弛緩のために囊状に膨らんでいる。胃の位置は、中等度に内容物が入っている場合には、胃全体の六分の五が体の正中線から左側にあり、胃の細い部分だけが右側にある。胃に内容物がないときは、胃の最下端(大彎底部)は、成人の場合、臍より指を横に三本ほど並べた上方となる。胃の各部の名称は、食道から胃に移行する部分を噴門^{ふんもん}とよび、噴門口から胃内腔^{いろう}に入る。内腔は急に拡張するが、その大部分が胃体であり、胃体の左側上端の膨らみを胃底とよぶ。胃底の位置は第十肋骨前縁の高さになる。胃体は出口に向かって細い管状



胃／位置

部、すなわち幽門部となり、十二指腸に続く境が幽門である。胃を全体的にみると、前壁はやや前上方を向き、後壁は後下方を向く。前壁と後壁との移行部はともに上方に開く弓状をしており、上縁が小彎、下縁が大彎である。日本人では小彎の長さは一二―一五^{cm}、大彎は四二―五〇^{cm}である。容量平均は、日本人の成人の場合、男性で一四〇・七・五^{cc}、女性で一七五・〇^{cc}である。

〔胃の構造〕胃壁の構造は、外から内に向かって漿膜、筋層、粘膜に区別される。漿膜は腹膜の連続で、胃の全体を覆い、小彎、大彎でそれぞれ小網、大網に移行する。筋層は三層の平滑筋層で構成されている。外側から縦走筋、輪走筋、斜線維が配列している。ほぼ食道壁の筋層から続いていくが、輪走筋がもっともよく発達し、ほぼ平均した厚さである。斜線維というのは食道輪走筋の一部の続きで、噴門から斜めに分散するが幽門までは届かない。輪走筋は幽門ではとくに厚い幽門括約筋を形成し、幽門口を取り巻いている。粘膜は、胃が空虚で収縮状態のときは多数の縦走ひだをつくり、さらにこのひだを横に連ねる短いひだがある。胃の拡張時には、これらのひだは消失するが、小彎に沿う三―四条のひだは残っていて、胃の内容物を十二指腸に向けて移動させるために役立つ。

粘膜表面は二―三^{cm}大の多角形の小区画に分かれ、胃小区という。胃小区の中に無数の胃小窩^{いせうこ}という小陥凹^{せうたんおう}があり、その底部に胃腺が数個ずつ開口している。胃腺は胃液を分泌するが、粘膜上皮が粘膜固有層の中に進入してできたもので、胃底と胃体には固有胃腺(胃底腺)、幽門部にのみ幽門腺が存在する。固有胃腺を構

成する細胞は、主細胞、旁細胞(壁細胞)、副細胞の三種類がある。胃腺の大部分は主細胞が占め、ペプシノーゲン(胃液原素)と凝乳酵素を分泌する。副細胞は胃小窩に近い腺頸部に存在し、粘液物質を含む。旁細胞は腺全体にあるが、とくに腺頸部に多く、塩酸分泌をする。一方、幽門腺は一種類の細胞からなり、噴門腺に似ている。噴門腺は噴門を取り巻く少量の腺で、食道噴門腺と同じ粘液性腺である。

胃と周囲臓器との関係は、胃の大部分が上腹部と左下腹部に収まり、小彎、噴門、幽門部は肝臓左葉に覆われている。大彎の一部は横行結腸に覆われ、右側のほぼ三角形部分は直接前腹壁に触れ、胃の後方には左腎臓、副腎、脾臓がある。胃底は横隔膜の左下面に接し、脾臓、肝臓左葉にも接している。

胃の栄養をつかさどる血管は、腹部大動脈の枝の腹腔動脈から分かれて直接胃へ分布するものと、腹腔動脈から肝臓、脾臓あるいは十二指腸へいく動脈枝から分かれたものが分布しているが、胃からの静脈血は、脾臓、脾臓、十二指腸からの静脈血とともに、すべて門脈に注ぐ。胃周辺のリンパ節は、胃壁を循環するリンパ管を受け入れる。このリンパ節の分布は、胃腫瘍の転移や治療などに重要な意義をもっている。

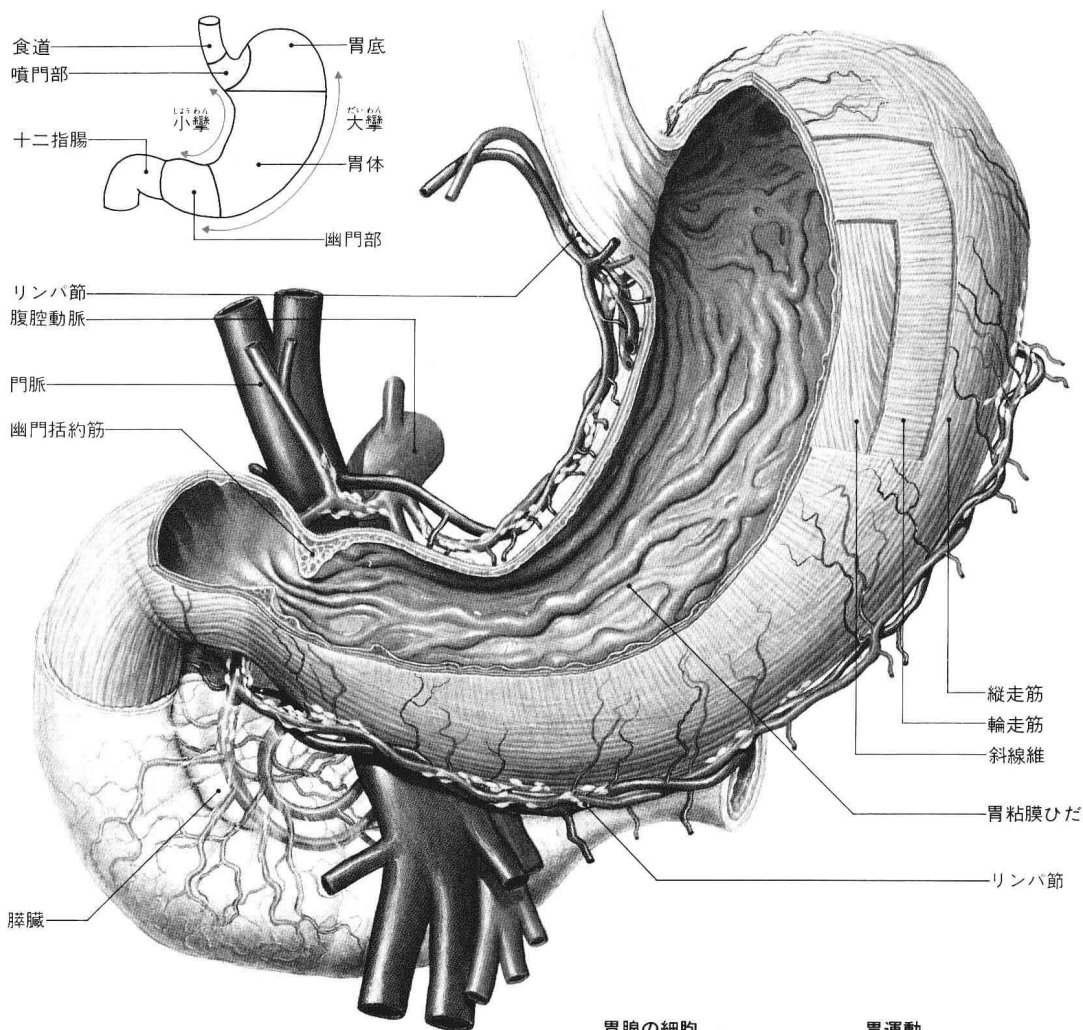
〔生理作用〕食道から運ばれてきた食物は、胃の中に層をなして重積し、胃体部の中央付近から約二五秒に一回の割合でおこる蠕動運動によって、幽門前庭部へと送られる。幽門前庭部では蠕動運動は強大になり、幽門括約筋の方向へ進行するが、普通この括約筋の所は閉鎖されており、内容物はここで反転逆行し攪拌混和され

る。この間に胃液の作用で胃内容が酸性になり、唾液のデンプン分解作用は止まる。また、胃液に含まれるペプシンは酸性で、よく作用し、食物中のタンパク質はペプトンに分解され、半流動性の糜粥とよばれる、粥状のものになる。この糜粥は幽門前庭部と十二指腸内の圧差によって、少しずつ幽門括約筋を通過して十二指腸に送られる。胃から十二指腸へ排出される時間は、食物の種類によって異なるが、脂肪性の食事は胃からの排出を遅らせる。これは、十二指腸に入った脂肪が、エンテロガストロンと

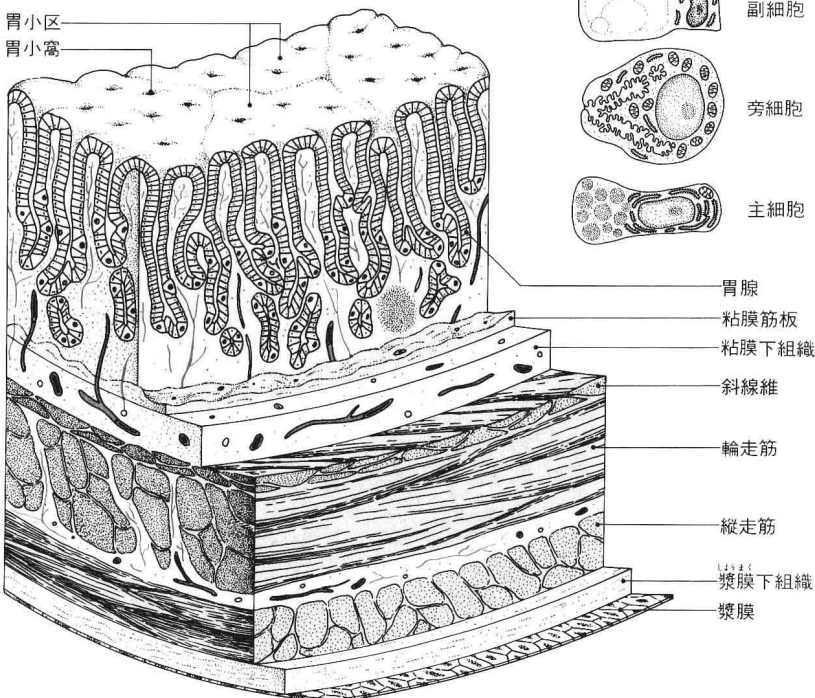
いう一種のホルモンを分泌させ、これが胃の運動を抑制するためである。また、食物の物理的な性質も排出時間に影響する。すなわち、液体は固形のものよりも早く排出され、固形ものは半流動体になるまで胃に停滞し、攪拌されるために、排出が遅れる。またストレスは、胃運動に対して抑制的に働くので、排出を遅らせることになる。胃では、ほとんど食物は吸収されないが、アルコールだけはよく吸収される。

【胃運動の調節】胃壁には、筋層の間にアウエルバッハ Auerbach 神経叢^{あうゑるばあししんけいそう}、粘膜下にマイ

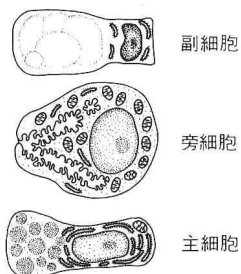
胃／各部名称



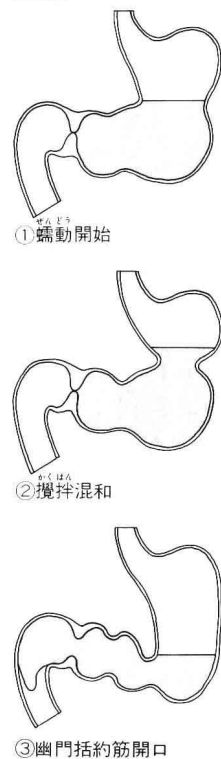
胃壁の断面図



胃腺の細胞



胃運動



スネル Meissner 神経叢とよばれる二つの神経群が存在し、これらは内臓神経（交感神経）と迷走神経（副交感神経）とに連絡する。一般には迷走神経は胃運動を促進し、内臓神経はこれを抑制することが知られるが、迷走神経は抑制線維が、内臓神経には促進線維が認められ、これらが複雑に胃の運動を調節している。延髄には胃運動の中枢があり、この中枢を介して、小腸・胃運動の中枢があり、この中枢を介して、小腸の化学的刺激または伸展刺激が引き金となっておこる、胃運動の抑制をいうが、迷走神経

を切断すると、この反射は減弱するといわれる。このほかにも、小腸・胃運動促進反射、大腸・胃運動抑制反射などがある。胃粘膜から分泌されるホルモンであるガストリンは、おもに胃液の分泌を促進するが、胃運動に対しても促進的に働く。また十二指腸粘膜から分泌されるコレチストキニンも胃運動に対して促進的に働くが、セクレチンや GIP (gastric inhibitory polypeptide) は胃運動を抑制する。このように、消化管の粘膜から分泌されて、その運動や分泌機能を調節する化学物質を消化管ホルモ

ンという。

〔胃の病態〕胃は、粘膜やそこから分泌される粘液によって胃壁を保護し、また粘膜細胞にある酵素によって自らが消化されるのを防いでいる。この保護作用が弱くなると胃液が作用し、潰瘍が生ずる。これを胃潰瘍または消化性潰瘍といい、自律神経の失調やストレスによっておこる分泌機能の変調が関連するといわれる。症状として胃痛、嘔吐、吐血などがある。胃潰瘍のほかは胃炎、胃癌は胃の病態として重要で、胃の三大疾患といわれる。これらのほかにも、胃壁の緊張が低下した胃アトニー症、あるいは中毒などにより反射性または中枢性に迷走神経の緊張が高まり、胃全体の拘縮をもたす胃けいれんなどもしばしばみられる。〔市河三太〕

〔動物の胃〕脊椎動物のうち、大部分の哺乳類の胃は一室で、ヒトの胃に似ている。ウシ、シカなど反芻類の反芻胃は例外で、四室（入口から順に瘤胃、蜂巢胃、重弁胃、皺胃）または三室（重弁胃と皺胃の分化がない）である。鳥類の胃は前胃（腺胃）と砂囊（きわめて厚い筋肉壁よりなる、しゃく胃）の二室である。大部分の魚類、両生類、爬虫類の胃は嚢状で、腸管の一拡張部をなす。

無脊椎動物の胃とよばれる部分の形態的、機能的分化の様子は、動物の種類によってさまざまである。原生動物の食胞は仮性胃ともいう。海綿動物の体内腔を胃腔、腔腸動物のクラゲ型では口と放射水管との間の拡大部を胃とよぶ。線虫類の食道と腸との間は腺胃という。紐形動物、環形動物のヒル類、軟体動物の二枚貝類、節足動物の昆虫やクモ類などの胃にはいろいろな形や数の、膨出した盲嚢（胃盲嚢）を伴うものがある。軟体動物の二枚貝類、腹足類、節足動物の甲殻類や昆虫類には、食物をより分けて次の消化器官に送る濾過胃を有するものがあり、また、輪虫類、環形動物の貧毛類、節足動物の甲殻類には食物を破砕する機能をもつしゃく胃を有するものがある。液状で食物をとる昆虫（ハエやカ）には、大量の食物を一時蓄える吸胃がある。

〔内堀雅行〕

〔問田直幹・内園耕二・伊藤正男・富田忠雄編〕

〔新生理学 下巻〕第五版（一九九二・医学書院）

〔銭場武彦著〕胃・腸管運動の基礎と臨床

（一九九二・真興交易医書出版部）

移い 大宝・養老両令に規定の見える文書様式で、上下支配関係のない役所間で出す文

書。省と省、国と国、同省内の寮と寮、また独立官庁である春官坊、衛府などと省の間、このほか、寺院・造寺司などと省・寮との間で使われた。移はたとえ、始めに「刑部省移式部省」と書き、本文の終わりを「故移」または「以移」で結んだ。寮が他省に事を伝える場合は、上級の省に解を出し、その省がその事柄を移で他省に伝えた。移は平安時代に衰えた。

〔百瀬今朝雄〕

E イー 英語アルファベットの第五字。二番目の母音字。古代のアルファベットにはない文字であり、エジプトの象形文字から、フェニキア文字、セム文字を経て、ギリシア文字から現在に至っている。元来はh音を表す文字であったが、ギリシア文字のある地方のアルファベットにおいて、長母音のイプシロンεを表す文字としてイータHが用いられ、このHが変化してEが誕生した。小文字eは太文字Eからアンシヤル体を経て生じた。音楽ではドレミ唱法のミ（ホ音）、ハ長調の第三音を表す。太文字Eは、物理ではエネルギー、論理学では全称否定、電気では電圧を、また方位では東を表す。中世ローマ数字では二五〇を示す。また小文字eは、数学では自然対数の底、円錐曲線の離心率を、物理では、電子あるいは、陽子の電荷を表している。

〔斎藤公一〕

遺愛寺 いあいじ 中国江西省の廬山にあった寺。廬山は慧遠（三三四—四〇二）が東林寺を拠点として念仏結社白蓮社を営んだ仏教の聖地であるが、遺愛寺も慧遠の草創にかかると伝える。唐代末に廃され、明の成化年間（一四六二—一四八二）には僧慈釗が紫雲庵を寺趾に建立して復興したと伝えるが、これも現存しない。遺愛寺と廬山北峰の香炉峰との間の景観は名勝とされ、韋応物や白居易（白居易）などの文人が遊んだ。とくに白居易はこの地に草堂を結んで、流謫の心をいやし、「遺愛寺の鐘は枕を敲けて聴き、香炉峰の雪は簾を撥いて看る」と詠んだ。清少納言の『枕草子』第二九段の話はこの詩を下敷きにしている。↓廬山

〔里道徳雄〕

居合術 いあいじゆつ 居合は立合に対する語で、敵と居合わせるや、腰の扱いですばやく刀を抜き放ち、わが身を守り敵を制する操刀の術をいう。抜刀、居相、座合、抜合、抜剣、利（理）方、鞘の内（中）などの名称でもよばれ、その時代その流派によって、さまざまな所作や解釈が加えられているが、いずれも鋒（切

先）が鞘を離れる瞬間に勝敗を決することを本旨としている。

その技法は大別して、座業（立膝、あくぐら、つくばい、居合腰）、立業、歩行中の業に区別され、得物も流儀によってくに長い刀や鐔なしの刀を用いるものがあり、また稽古用具も刃引刀、木刀、鞘入木刀のほか、肩当や打込台などを使用するものもあった。江戸中期、享保（一七六〇—一七九六）以後は礼法要素が強調され、正座から始めて、鯉口の切り方、柄への手のかけ方、放し切り、手の内の締め方、足の踏み方、刀の納め方など、作法の厳正さと、その間の気合を重視し、行住座臥、つねに身の備えを怠らず、いかなる場合にもただちに対応できる平常の心構えを第一とされた。

〔幕末までの歴史と流派〕居合の流派を發生的にみると、①剣術に付属して考案されたもの、②柔術に付属して発展したもの、③居合を本体とし、これに剣、柔などを付属させたもの、の三つに大別される。③の居合を本体とする流儀の創始者は、戦国末期に出た奥州の人、林崎甚助重信で、出羽国楯岡（山形県村山市）の林崎明神に参籠すること一百日、明神の啓示を得て長柄の刀をくふうして居合の妙を会得し、神夢想流（略して夢想流、また林崎流、重信流）を編み出した。この門流から江戸時代の初期、田宮平兵衛業正（田宮流祖、長野無業斎権露（無業流祖）、片山伯耆守久安（伯耆流祖）、関口弥六左衛門柔心（関口流祖）、一宮左太夫照信（一宮流祖）などの俊才が相次いで現れた。越えて享保のころ、土佐に長谷川主税助英信（長谷川流、英信流の祖）が出て、始祖重信以来の達人といわれた。

このほか天真正伝香取神道流、竹内流、一伝流、制剛流など、柔、剣の流儀に付随して発展した流派も多く、柔新心流、不伝流、理方一流、水野流、家次流、化頭流、無外流、一心流、水鷗流、新田宮流、影山流、立身流、抜討流、山本流、荒木流などは居合流派として有名であった。それらを含めて江戸末期には居合の流派は二〇〇を超えるという。

〔明治以後の居合術〕明治維新による武士階級の崩壊、さらに廃刀令（一八七六）によって、居合諸流派は大打撃を受けた。一部有志の人々によってわずかに命脈を保ったが、一八八六年（明治一九）警視庁流剣術組太刀の制定の際、剣術形一〇本に対し、居合形五本（前、後、左、

右、四方）を各流派からとって組み立てたが、普及するに至らなかった。越えて九五年大日本武徳会が設立されたが、居合術はわずかに各種大会に演武の機会を与えられるにすぎなかった。ついで日露戦争前後、伯耆流の星野九門（熊本）、英信流の大江正路（高知）、大森流の中山博道（東京）らの努力によってようやく居合術の存在が世に認められるようになった。中山は一九二〇年（大正九）大日本武徳会から居合術範士と剣術範士の称号を受け、翌年警視庁武術師範に任命されている。

一九三三年（昭和八）中山は、その後の研究の成果を踏まえて、初伝（大森流）正座一本、中伝（長谷川英信流）立膝一〇本、奥居合（林崎流）座業八本、立業一三本、計四二本の形を編成し、夢想神伝流と称して、その普及を図った。当時の武徳会居合術範士は中山ただ一人（教士三一名、練士六三名）であり、その影響力は大きく、現代の居合道に及んでいる。なお太平洋戦争突入直前の四一年三月、居合術の称号所有者数は、範士二、教士五〇、練士一七八、計二三〇名と、この戦時下八か年に二・四倍となっている。

〔現代の居合道〕一九四五年（昭和二〇）の敗戦とともに、GHQ（連合国最高司令部）による一連の武道弾圧政策、刀剣類の所持禁止令など、居合術にとっては壊滅的ともいえる大打撃を被った。五一年九月の講和条約締結により剣道復活の気運は急速に高まり、翌五二年一〇月、全日本剣道連盟（全剣連）が結成された。ついで五四年五月、全日本居合道連盟が結成され、五六年九月、総会の決議によって、多年懸案の共通居合道形を制定することとなり、同年一〇月、各流派より初心者向けの基本的な技を選び、五本からなる「全日本居合道刀法」を制定した。このことから居合術にかわって居合道の名が定着してきたといえる。一方、全剣連においても、組織内の強い要望を受けて居合道部を設置し、剣道と同じく段位制（初段—一〇段）を採用し、称号、段位の審査基準を決定した。このため両者の間に確執が生じたが、相互に立場の相違を認め合って今日に至っている。なお、最近の居合道人口は目覚ましい増加をみせ、八〇年二月現在で全剣連加入の有段者は三万四〇〇〇人を超えている。

〔渡辺一郎〕

居合抜き いあいぬき 武術の居合術が見せ物化したもの。太平の時代に武術一般が見せ物



居合抜き 街頭での舞台の幕には、松井源水の名がみられる『東京風俗志』

奏の結果、天皇が発した直接の命令は、「勅を奉じ……を命令す」という形式で伝達され、奉勅命令と称された。

イアシ

（村上重良）

イアソン Iason ギリシア神話の英雄。アルゴ船物語の主人公。テッサリアの大都イオールコス王の王である父アイソンは、異父兄弟ペリアスによって王座を追われたが、一子イアソンにまで迫害の及ぶことを恐れ、ケンタウロス族の賢者ケイロンに息子を預けた。やがて成人したイアソンは、王位継承権を要求するためペリアスの所へ向かうが、その途中、卑しい老婆に変装したヘラ女神に会って、川の向こう岸に渡してやる際、片方のサンダルを失う。一方、以前片足サンダルの男に破滅させられるであろうとの神託を受けていたペリアスは、イアソンを亡き者にしようとして企て、金の羊毛皮をコルキスの地から奪ってくるよう命じた。イアソンはギリシア中の英雄、豪傑を集めてアルゴ船に乗り組み、苦難のすえ黒海のかたのコルキスに着いた。そしてアイエテス王から、口から火を吐く牡牛で畑を耕し、竜の牙をまくという難題を課せられるが、彼に恋した王女メデアの助けで無事にこれを果たし、金の羊毛皮を手に入れて、妻となったメデアとともに帰国する。

しかし、メデアの魔術によってペリアスを殺害したため祖国を追われた二人は、コリントに逃れた。そのうちイアソンは、メデアを捨ててコリントス王の婿となったが、怒り狂ったメデアはイアソンとの間にもうけた二子を虐殺、花嫁をも魔薬で殺した。そして、イアソンはアルゴ船の朽ちた船材を頭上に受けて死んだともいわれる。

イアソンの物語は、ピンダロス（前五三／五六）の『前四（四三）』の『メデア第四歌』、またロドスのアポロニオス（前五五／五七）の『アルゴナウティカ』などに詳しい。〈中務哲郎〉

胃アトニー

（中務哲郎）

胃が低緊張ないしは無緊張状態になっているため、胃容積は大きく、胃から十二指腸への食物の排出時間が遅延している。したがって食後に、心窩部（上腹部、みぞおち）の鈍痛、重圧感、膨満感、げっぷ、胸やけなどの症状を示すこともある。また、基礎疾患として、急性消化不良、感染症、栄養不良、悪液質などを伴うこ



イアソン 竜から吐き出されるイアソンとアテネ B.C.5世紀 陶画 パチカン グレゴリアーノ・エトルスコ美術館

慰安婦 いあんふ 旧日本軍の海外駐屯地で兵士たちの相手をした遊女。娘子軍ともよばれ、占領地の婦女子に対する兵士たちの暴行行為を防ぐ意味もあって、軍の保護のもとに営業させた。初めは九州地方の遊郭や水商売に携わった女性から希望者を募ったが、しだいに国内や朝鮮半島の貧困家庭の出身者にも及んだ。第二次世界大戦中は中国奥地から南太平洋の孤島にまで派遣され、激戦地では銃をとって戦い、兵士と運命をともにする者も多かった。〈佐藤農人〉

井伊氏

（三一新書）

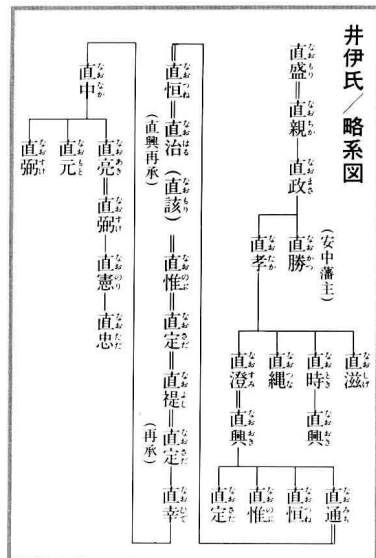
井伊氏 いうじ 江戸時代、彦根藩を領有した譜代大名。遠江（静岡県）引佐郡井伊谷に住み井伊氏を称した。戦国時代、直盛・直親父子は今川氏に仕えたが、藩祖直政（直親の子）は一五七五年（天正三）一五歳で徳川家康の家臣となり、井伊谷で二十石、その後たびたびの合戦に大功をたて、九〇年家康の関東入国に際し、上野（群馬県）箕輪で十二万石を与えられた。一六〇〇年（慶長五）関ヶ原の戦いによって石田三成の居城近江（滋賀県）佐和山で十八万石を与えられ、嫡子直勝は彦根（滋賀県彦根市）に新城を築いたが、病弱で一四四年大坂冬の陣にも出陣できず、家督を弟直孝に譲り、自らは彦根十八万石のなかから上野安中で三万石を分与された（この家系はのち三河西尾、遠江掛川を経て越後与板藩に入封）。直孝は徳川秀忠に仕え、大坂夏の陣に戦功をたて、一六一五年（元和一）五万石を増加されて二十万石となり、ついで徳川家光・家綱に仕え、所領も加増され三十五万石の譜代筆頭大名となった。

異安心

（小川正広）

異安心 いあんじん 正統説とは異なった見解。異端説をいう。安心とは心が安定し不動を得た境地。ことに親鸞を開祖とする真宗で使う語。親鸞在世中すでに、一念か多念か、有念か無念か、信の一念か行の一念かなどのいさかいがあり、蓮如のころには、秘密裏に教えを伝授する「秘事法門」、この世で成仏できるとする「一益法門」、「施物頼み」などが異端として指摘されている。一七六三年（宝暦三）に起こった三業惑乱は異安心の事件として著名である。〈松野純孝〉

井伊氏 略系図



事、七一年廢藩により免ぜられ、八四年伯爵を授けられた。↓彦根藩

④新訂 寛政重修諸家譜 一二 (一六五・統群書院従完成会) ▽中村直勝編 彦根市史 上冊 (一六〇・彦根市)

飯尾氏

いいおじ 古くは「いいのお」または「いのお」と読まれている。三善氏の一族。阿波国麻植郡飯尾(徳島県麻植郡鴨島町)に往したので飯尾氏を称したという。鎌倉時代、六波羅探題の奉行人に頼定なる者がみえ、建武政府の雑訴決断所職員中にも寛民、貞兼、頼連らの名がみえるから、鎌倉幕府の事務官僚の家柄であろう。室町幕府が成立して以後は幕府の奉行人となった。系図が残されていないので相互の關係は未詳だが、初期には貞兼、宏昭、寛民、頼國、道勝、貞行、円輝、頼秀らの名がみえ、一五世紀に入ると、貞連(法名性通)、清親(浄信)、為数、之種らが政所の執事代に任ぜられた。為種(永祥)にはことばを類聚した一種の辞書である『振環集』があり、元連(宗勝)は幕府の最高の評定である御前沙汰の構成員となり、評定の記録である『伺事記録』を残している。ほかに、南北朝時代以降、阿波の細川氏、三好氏の被官に飯尾を名のる者がいる。

飯岡(町)

いいおか(まち) 千葉県北東部、海上郡にある町。九十九里浜北端に位置する。一八八九年(明治二二)町制施行。一九五四年(昭和二九)三川村と合併。町の西半部は九十九里平野、東半部は台地であり、南東部の刑部岬は屏風ヶ浦へと続く。地名は台地が飯を盛った形に似ていることに由来。国鉄線から外れ、国道一二六号が走る。中世には海上氏の支配を受け、江戸時代には天領となった。キャベツ、

スイカなどの野菜と、養豚、米の生産に依存した農業と、イワシ中心の漁業のほか、サツマイモのデンプン工場、水産工場が残っており、近年では縫製工場も増えている。飯岡助五郎が笹川繁蔵と縄張り争いをした『天保水滸伝』の舞台で、その墓がある。また玉崎神社の本殿や、町内の芋念仏は県の文化財に指定されている。人口一万二二二。

飯岡助五郎

いいおかのすけごろう (一七二一〜一八二五) 江戸後期の博徒。講談、浪曲で有名な『天保水滸伝』に登場する。相模国三浦郡公郷村(神奈川県横須賀市)の生まれ。下総国飯岡(千葉県海上郡)に流れて男をあげ、銚子の五郎蔵より飯岡浜一帯の縄張りを譲り受け一本立ちの貨元となる。銚子飯沼陣屋から十手取縄を預かり、二足のわらじをはく。笹川(千葉県香取郡東庄町)の繁蔵と勢力を張り合い、一八四四年(弘化二)八月六日、笹川に乗り込むが失敗(世にいっや大利根河原の決闘)。安政六年四月一四日没。墓所飯岡町光台寺。古老によると晩年の助五郎は、近所の子供たちから親しまれる好々爺であったという。飯岡町玉崎神社の境内に助五郎の顕彰碑がある。

〔藤野泰造〕

イイギリ

〔飯桐〕 〔学名〕 *Leslia polycarpa* Maxim. イイギリ科の落葉高木で、大きなものは高さ二〇メートルになる。葉は互生して厚く、長い柄があり、卵状円形で先はとがり、基部はやや心臓形で粗い鋸歯があり、長さ一〇〜二五センチ、幅八〜二〇センチ、裏面はやや白い。雌雄異株。初夏に枝先に円錐花序を下垂し、多くの花をつける。花は緑黄色。雄花は五枚の花被片と多数の雄しべからなる。雌花は五枚の花被片と一本の短い柄のある雌しべがあり、柄の周りに多数の退化した雄しべがある。果実は秋に赤く熟し、球形の核果で径一センチ、多数が集まって下垂し美しく、庭木とされる。暖地の山中に生え、本州西部以南から沖縄、朝鮮南部、中国に分布する。名は、この葉で飯を包んだからとも、漢名の椅の音に由来するともいわれる。材は柔らかく細工物に使われる。

〔山崎 敬〕

イイギリ科

〔学名〕 *Flacourtiaceae* 双子葉植物、離弁花類。常緑または落葉性の木。葉は単葉。花は一般に小さく両性または単性。三〜六枚の萼片と、それと同数の花弁が放射相称に並ぶが、ときに花弁を欠く。雄しべは多数。子房は柄があり、一室で側膜胎座に多数の胚珠をもつ。果実は液果、蒴果または核果。熱帯から暖帯にかけて分布し、九三属約一〇〇〇種知られる。日本にはイイギリ属一種、クスドリゲ属一種が分布するだけである。〔山崎 敬〕

飯坂温泉

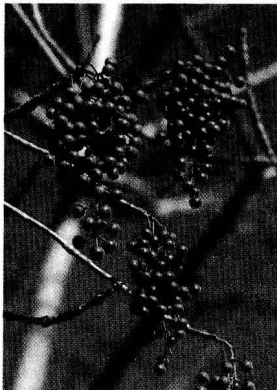
いいざかおんせん 福島県北部、福島市にある温泉。鎌倉時代にすでに利用されていたとみられ、松尾芭蕉や白河藩主松平定信らも入湯したという。摺上川の両岸から湧出し、泉質は単純泉。設備は大規模化し、付近にはリソゴ、モモの果樹園が多く、大鳥城跡、天王寺、医王寺などがある。福島交通線飯坂温泉駅下車。〔原田 榮〕

飯篠長威斎

いいざきちやういさい (一四三二〜一四八〇) 室町時代の武術家。わが国刀槍術史上中興の祖といわれる。下総国香取郡飯篠(千葉県香取郡多古町)の郷士。名は家直、山城守のち伊賀守と称し、一四八〇年(文明一二)六〇歳のとき入道して長威斎と号した。幼少のころから刀槍の術を好み、古来香取・鹿島に伝え



イイギリ (左)雄花 (右)落葉後も橙赤色の果実が残る



飯篠山城守長威斎 長威斎は四月廿二日、八歳没、六八歳。一説に一〇二歳という。門下に塚原土佐守安幹(ト伝の養父)、師岡一波斎(諸岡一羽)、松本備前守政信などの逸材を輩出し、また飯篠家の二代若狭守盛近、三代若狭守盛信、四代山城守盛綱、いずれもよく父祖の業を継ぎ、刀槍の術に秀で、近世剣術諸流派の一の大源流となった。↓天真正伝神道流(渡辺一郎) 飯沢匡 いいざわたかし (一八七九) 劇作家、演出家、小説家。本名伊沢紀。政治家伊沢多喜男を父に、その赴任先の和歌山市に生まれる。文化学院在学中から劇団テアトル・コメディに属して劇作を始め、卒業後朝日新聞社に勤務のかたわら『北京の幽霊』(一九四四)、『鳥獣合戦』(一九四四)などの時局風刺劇を発表した。第二次世界大戦後『崑崙山の人々』(一九五〇)で本格的な喜劇作家の地位を確立、一九五四年(昭和二九)朝日退社後は縦横の活躍を示し、ラジオ児童番組『ヤン坊二坊トン坊』(一九五九〜六〇)をはじめ、『二号』(一九五九)、『塔』(一九六〇)、『五人のモヨノ』(一九七五)、『円空遁走曲』(一九七五)などの話題作を発表。その活躍は新劇、ミュージカルから狂言、歌舞伎、新派、大衆劇の分野にまで及び、ますます時事性と反骨精神を強めている。短編小説、評論の名手としても知られ



飯篠長威斎 画像 国立国会図書館

る。日本芸術院会員。

④『飯沢匠喜劇集』全六巻（一九九〇・未来社）
EEC イーイーシー ↳ヨーロッパ経済共
同体

飯島（町） いじま（まち） 長野県南部、上伊
那郡にある町。伊那盆地の中央部に位置する。
一九五四年（昭和二九）町制施行。五六年七久
保村と合併。天竜川右岸段丘上にあり、国鉄飯
田線が通る。町の中心部は、近世三州街道が通
り、その宿駅として発展し、現在は国道一五三
号が通じている。段丘上の平坦面は稲作と名産
二十世紀ナシが栽培されている。一六七七年
（延宝五）江戸幕府の直轄地を支配する陣屋が
置かれ、明治初年まで伊那盆地の天領三六か村
を支配した。一八六八年（明治一）伊那県庁が
置かれ県下全域の天領を支配し、七〇年北部の
天領が中野県の管轄となり、翌年伊那県は筑摩
県に併合された。西方の越百山麓の千人塚
は、織田、武田の一〇〇〇人に及ぶ戦死者を埋
めたといわれ、いまは南アルプスを全望できる
キャンプ場としてにぎわっている。人口一萬〇
五五。

⑤五万分の一地形図「赤穂」「飯田」
飯島魁 いじまきお（一八二一～一八七三） 動物
学者。遠江国（静岡県）浜松に生まれ、東京開
成学校を経て、一八八一年（明治一四）東京大
学理学部生物学科を卒業。八二～八五年ドイツ
のライプツィヒ大学に留学、ロイカルトのもと
で動物学、寄生生物学を修め、ウズムシ類の研究
や単生吸虫の生殖腸管の発見などの業績を残し
た。帰国後八六年、二六歳で帝国大学の教授と
なり、動物学と寄生生物学の講義を受け持つ。そ
の研究は、カイメン類、ウズムシ類、寄生虫
類、ヒル類、鳥類など広範囲にわたり、寄生虫
では広節裂頭条虫の幼虫をマスにみつけ、自体
感染によりマスが中間宿主になることを明らか
にした。大複殖門条虫の人体寄生第一例の発
見などの業績がある。日本における近代動物学
の基礎を築き、五島清太郎など優秀な門下生が
輩出した。『人体寄生動物編』（一八八八）、『動物学
提要』（一九〇）などの著書がある。〈町田昌昭〉

飯島耕一 いじまこういち（一九〇一～） 詩
人。岡山市生まれ。東京大学仏文科卒業。第二
次世界大戦後の虚脱状況を若々しい感性で受け
止めた第一詩集『他人の空』（一九五五）で注目さ
れ、フランスの超現実主義に影響されつつ
『鯨』『権』などの同人誌活動のかたわら、詩集

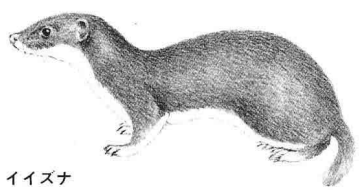
『わが母音』（一九五五）、『何処へ』（一九六）以下
『ハルセロナ』（一九七）、『宮古』（一九七）と旺盛
な詩作活動続ける。

詩画集や評伝、長編小説、映画評論、翻訳と
多彩な活躍ぶりだが、『日本のシニールレアリ
スム』（一九六三）以下、評論集も五指を超える。
明治大学教授。

⑥『新選飯島耕一詩集』（一九七・思潮社）
イイジマヒラムシ（飯島平虫） ⑦Stylo-
chus yimae 扁形動物門渦虫綱多岐腸目スチ
ロヒラムシ科に属する海産小動物。日本各地の
海岸に分布し、干潮線と満潮線付近の石の下な
どにすむ。普通、石の表面をはうが、泳ぐこと
もある。体長五ミ、幅三ミぐらいの楕円形で扁
平。前縁の近くに一对の触角がある。体の背面
は黄褐色の地色に灰紫色の斑点が一様に分布
し、触角の基部および前縁に沿って黒色の一
以下の眼点が多数ある。腹面は淡色で、中央に
口があり、口を中心に腸管が全体に細かく分
岐しているのがみえる。この種も北アメリカ産
の近似種も、養殖カキを害害するといわれてい
る。〈峯岸秀雄〉

イイジマムシクイ（飯島虫喰） Jijima's
willow warbler ⑧Phylloscopus yimae 鳥
綱スズメ目ヒタキ科ウグイス亜科の鳥。日本特
産種。全長約一一・五ミ。伊豆諸島の林で繁殖
し、冬はフィリピン方面で過ごす。かつてはセ
ンダイムシクイと同種にされていた。和名と学
名中の種小名は、日本鳥学会初代会頭を務めた
飯島魁にちなむ。↓ムシクイ 〈竹下信雄〉

飯塚（市） いづか ↳飯塚（市）
イイズナ least weasel ⑨Mustela niva-
lis 哺乳綱食肉目イタチ科の動物。北アフリ
カと西ヨーロッパからアジア北東部に分布し、
日本では北海道と東北地方および中部地方の高
山に生息。コエゾイ
チともいわれる。北ア
メリカ産のアメリカイ
イズナ M. vison も
同種にまともる学者も
いる。体長一五～二〇
ミ、尾長二、三ミ、体
重三〇～七〇ミ、食肉
目のなかでもっとも小
さい。夏毛は背面が黒
褐色で腹面は純白、冬
毛は全身白色となる。



イイズナ

主食はネズミ類で、体が小さいために
ネズミの穴に自由に入り込むことができ
る。そのほかカエル、ヘビなども捕
食し、ウサギも攻撃する。ネズミが多
い天敵として重要である。ネズミが多
い場所なら森林、草原を問わず生息
し、人家の近くにも姿を現す。交尾、
出産は春から夏の間で、年二回以上の
出産もあるといわれる。一回の産子数
は三～九頭。毛皮は質が劣り、小さい
ので利用されない。〈朝日 稔〉

飯田 いいた 石川県珠洲市の中心
地区。旧珠洲郡飯田町。能登半島の先
端にあり、奥能登観光の拠点。朝市が
有名。↓珠洲市

⑩二万五千分の一地形図「能登飯田」
飯田（市） いいた 長野県南部、天
竜川の両岸にまたがる伊那盆地南部の
中心都市。一九三七年（昭和一二）飯
田町と上飯田町が合併して市制施行。
五六年（昭和三一）座光寺、松尾、竜丘、三
穂、伊賀良、山本、下久堅の七村、六一年川路
村、六四年竜江、上久堅、千代の三村、八四年
鼎町と合併。市域の中に、上郷町が入りこんで
いる。市街地は天竜川の右岸で、天竜川と支流
のシンボルの風越山（五五五）がそびえる。天
竜川左岸は農村部で、六～七段にも及ぶ河岸段
丘上に集落が散在し、伊那山地の分水界まで広
がっている。国鉄飯田線と、中央自動車道およ
び国道一五二号、一五三号が幹線交
通をなすが、中央自動車道で名古屋市へ九〇分
で達するため名古屋方面との関係が深い。
市街地は、戦国時代末期に毛利、京極氏ら
により長姫（飯田）城の城下町として京都に倣
い碁盤状に区画され、また一六七二年（寛文一
二）以来幕末まで堀氏二万石の城下町として形
成されたが、古代、上方からの東山道の通過地
などにもあつたという関係上、民家の様式やこ
とばなどにも京都風がみられ、昔から小京都と
いわれてきた。一九四七年（昭和二二）の大火
のため、城下町の姿は大半焼失し近代都市に改
まったが、城跡や門、武家屋敷のようすなどが
一部に残っている。文化的雰囲気が高いといわ
れ、市内には江戸時代の国学者太宰春台の生
家跡や、明治の日本画家菱田春草の碑や墓地、
それに飯田藩主の菩提寺長久寺などがあり、近



飯田市 水引作り。晴天の日が多い冬の気象条件を生かした伝統産業で、原料は和紙。近年は儀式用のほか、豪華な水引工芸もみられる

⑪五万分の一地形図「飯田」「時又」「妻籠」
飯高（町） いいたか（ちょう） 三重県中西部、
飯高郡にある町。橿田川の最上流部、高見山地
の東麓に位置する。一九五六年（昭和三一）宮
前、川俣、森、波瀬の四村が合併して町制施
行。町名は古代からの郷名、郡名を引き継い
だ。町の九〇％が山林で、橿田川をさかのぼり
西の高見峠を越え、奈良県に至る国道一六六号
が唯一の交通幹線で、かつては和歌山から大和
を経て伊勢へ至る参宮南（和歌山）街道として
にぎわった。県下でも過疎化の著しい山村で、
磨き丸太など良質の杉、檜の育林と製材、シイ
タケ、茶の栽培などを主産業とする。室生赤目
青山国定公園に属し、橿田川に香肌峡がある。



イダコ 内湾の水深10mぐらいの、砂泥底、砂礫底にすむ

支流の蓮川(はすがわ)谷ではダムが建設中で、このあたりではイノシシ、サル、シカなどをみることもある。人口七二七二。

〔伊藤達雄〕

飯田川(町) いたがわ(まち) 秋田県中西部、南秋田郡にある町。八郎潟に臨む。一九三五年(昭和一〇)町制施行。四二年大久保町、豊川村と合併して昭和町と称したが、五〇年分離した。町の中央を南北に奥羽本線と国道七号(羽州街道)が走り、二八五号を分岐する。集落は国道沿いに発達している。西部の八郎潟干拓事業により水田が大幅に増え、全耕地の九七%を占める。幕末からの酒、しょうゆ製造のほか、秋田湾臨海工業地帯の一部として繊維その他の工場が立地する。飯塚地区の神明社観音堂(国の重要文化財)は八郎潟湖畔にあったのを移転したので、江戸初期の建造と伝えられる。人口五六二二。

〔宮崎禮次郎〕

二万五千分の一地形図「大久保」

イダコ 〔飯蛸〕 ocellated octopus 〔学名〕 Octopus ocellatus 軟体動物門頭足綱マダコ科のタコ。北海道南部から九州までのほか、朝鮮半島から中国沿岸に分布する。水深一〇mぐらいの砂泥底または砂礫底にすみ、おもに貝類などを食べる。全長三〇cmぐらいて、外套膜は卵形、表面はやや鮫肌状の淡黄褐色で、第二腕と第三腕の間にある傘膜の上に金色の眼紋があり、目の間にも四角い金色斑がある。腕はほぼ等長で、吸盤は二列に並ぶ。成熟卵は、卵黄が多く二〇〇〜六〇〇粒もあり、成熟すると外套

の中に充滿し、煮るとこれが米粒様になるためイイ(飯)ダコの名があり、美味である。産卵期は冬季から春先で、卵は長さ五mmぐらいの短い棍棒状の袋に入っている。四〇〜五〇日で孵化し、寿命は一年。漁期は冬と春で、小形のタコ壺やアカニシの殻などを利用して採捕する。瀬戸内海や有明海、三河湾などの内湾が主要な産地である。

〔奥谷喬司〕

飯田事件 いいだけん 長野、愛知県県下の自由民権派による挙兵計画。愛知県渥美郡の旧田原藩士族村松愛蔵は、一八八三年(明治一六)春、名古屋区小市場町に公道館を設け、八四年四月ごろから同志八木重治、川澄徳次らと立憲政体樹立のため挙兵計画をたて、檄文五万部を印刷し、東京、大阪など各地に同時に配布することを決定した。川澄は飯田の愛国正理社社長桜井平吉にも同意を求め、また名古屋鎮台看護卒中島助四郎は八四年六月に脱營して、檄文配布計画を進めるため七月に上京した。その直後に村松、川澄、桜井らも上京したが、檄文印刷の資金が思うにまかせず引き返した。村松らは挙兵方針を貫くため九月から十一月にかけて組織活動を続け、八木が起草した檄文を蜂起を呼びかける檄文につくりかえ、愛国義勇、自由革命、天誅、自由万歳、租税軽減、徴兵令改正、印紙税廃止、貧民救恤の旗章を制定した。その直後村松らは田原方面に、川澄は愛国正理社を訪ねて桜井に蜂起の同意を得て遠山地方に赴き、南和田村の正理社員遠山八郎、米山房太郎、米山吉松らに挙兵計画を打ち明けたが、米山吉松が飯田警察署和田分署に密告したため、川澄と正理社幹部小堀周次郎は二月三日飯田署員に逮捕された。桜井は、同志を募るため松本、長野、小諸から軽井沢を歴訪し、帰路、上伊那郡高遠町の同志稲沢鎌八方に立ち寄ったが、稲沢に伊那分署に密告され逮捕された。こうして飯田事件は事前に発覚した。名古屋側では一人名が、飯田側では一七名が逮捕された。村松、八木、川澄、桜井、江川甚太郎、中島の六名は内乱陰謀罪で軽禁獄七年から一年の刑、他は無罪放免された。

〔後藤 靖〕

飯田線 いいだせん 日本国有鉄道の線路名称。豊橋(愛知県)―辰野(長野県)間一九六・〇km、豊橋―豊川間のみ複線、その他は単

線、全線直流電化。豊川と天竜川の河谷を走り、東海道本線と中央本線を結ぶ。沿線には豊川、新城、飯田、駒ヶ根、伊那などの諸都市や、鳳来寺山、佐久間ダム、天竜峡などの観光地がある。もとは豊川鉄道(豊橋―長篠)と現大海、一八九七―一九〇〇年開業、一九二五年電化、鳳来寺鉄道(長篠―川合)と現三河川合、一九二三年開業、一九二五年電化、三信鉄道(三河川合―天竜峡、一九三二―三七年電化開業、伊那電気鉄道(天竜峡―辰野、一九〇九―二七年電化開業)の四私鉄によって建設され、一九四三年(昭和一八)国有化されて飯田線となった。佐久間ダムの建設に伴って、佐久間―大嵐間の路線が水没し、水窪川の谷や大原トンネル(長さ五〇六三m)經由の路線に変更された。

〔青木栄一〕



飯田蛇笏

飯田蛇笏 いだだごつ (一八八二―一九六二) 俳人。別号山嵐。明治一八年四月二六日、山梨県東八代郡五成村小黒坂一八六番戸(現境川村小黒坂)に生まれる。父字作・母まき子の四男四女の長男。少年のころより句作。甲府中学、東京京北中学を経て一九〇五年(明治三八)早稲田大学に入学。同級に長田幹彦、有本芳水らが、一級上に北原白秋、若山牧水がいた。在学中、『文庫』『新声』に小説、新体詩を投稿して活躍した。ことに〇七年八月号の『文庫』巻頭に発表の小説『婢』は自然主義の作風を開拓した注目すべき力作である。この期に『ホトトギス』早稲田吟社の中心となり、また『国民新聞』高浜虚子選の俳壇に投稿活躍したが虚子に認められ、〇八年八月、一か月間の第二次『俳諧散心』(虚子による俳句会)に参加。『ホトトギス』主力メンバーの一人として句作鍛錬を経験した。一五年(大正四)創刊の俳誌『雲母』を選、のち主宰。

蛇笏の句業はこの明治期と大正時代、渡辺水巴、村上鬼城、前田普羅らとともに競った『ホ

トトギス』主観派の時代に形成され、その小説的な浪漫をもった主観句が前期とみなされるだろう。後期、昭和の戦前戦後を通じて、その作風はいよいよ荘重に格調高く、当代きつての立句の第一人者として、先達の虚子と並んで六〇年の鬱然たる句業を築き上げた。句集『山嵐集』(一九三三)、『雲母』(一九三七)、『山嵐集』(一九四三)、『白嶽』(一九四三)、『心像』(一九四七)、『春蘭』(一九四七)、『雪峽』(一九五〇)、『家郷の霧』(一九五〇)、『椿花集』(一九六六)など九句集、ほかに『穢土寂光』など多くの随筆集、俳論集、紀行文集がある。昭和三七年一〇月三日没。

〔石原八束〕

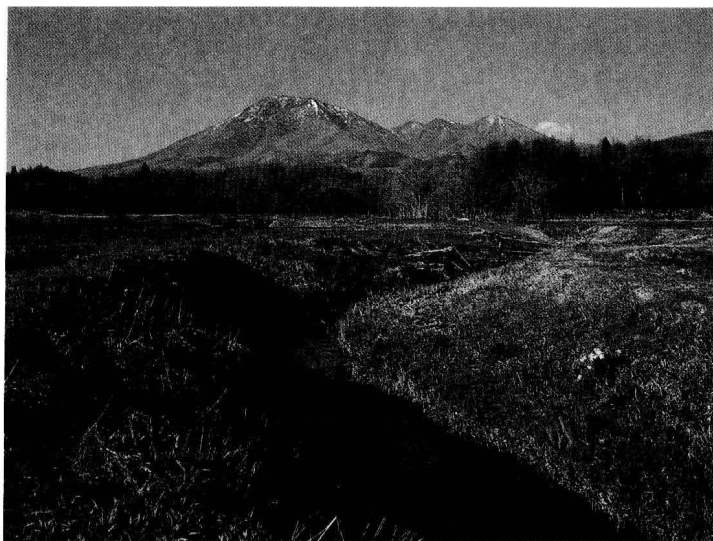
飯田忠彦 いだただひこ (一九一六―) 幕末の歴史家、志士。寛政一〇年二月一八日、周防国(山口県)徳山藩士里見義十郎の子に生まれ、のち河内国(大阪府)八尾の郷土飯田謙介の養子となる。通称要人、刑部、のち左馬。字は子邦、号は夷兵衛、環山、黙叟など。一六歳のときに『大日本史』を読んで感激し、その続史の編纂を志した。独力で三八年間を要し、一八五一年(嘉永四)ついに『野史』二九巻を完成した。一方で有栖川宮家に仕え、しばしば時勢について上書し、志士と交わる。五八年(安政五)安政の大獄に連座して謹慎処分を受け、期満ちてのち、京都に隠棲中の六〇年(万延一)、桜田門外の変で取調べにあり、憂憤のあまり自殺した。

〔高木俊輔〕

飯館村 いいだて(むら) 福島県北東部、相馬郡にある村。阿武隈高地の標高約四五〇mの準平原に位置する。一九五六年(昭和三一)大館、飯館の二村が合併して成立。かつては馬産地であったが、現在は牧牛が盛ん。高冷地で稲作は不安定であるが、シタケ、葉タバコ、トマトの生産に力を注いでいる。真野川沿いの大倉地区に多目的ダムを建設中である。人口八三三一で過疎化傾向にある。

〔原田 榮〕

飯田橋 いだばし 東京都千代田区の北端、外堀に架けられている橋、およびその橋の南方に延びる地区。国電飯田橋駅(中央線)、営団地下鉄東西線・有楽町線飯田橋駅がある。徳川家康が江戸城視察のおり、説明役となった名主の飯田喜兵衛の姓が地名の由来という。江戸時代は外堀をなす神田川水運の河岸が置かれた。



飯縄山 飯縄高原から見た飯縄山。戸隠山、黒姫山、斑尾山、妙高山とともに北信五岳の一つ。山頂の飯縄神社は修験道と関係が深く、飯縄使(狐使)・飯縄忍法もここに由来するという



飯豊山 南東上空、会津側から見た飯豊山(中央)と大日岳(左、2128m)。古来、信仰の対象であったが、1595年、時の領主蒲生氏が登山路を開き、それ以後知られるようになった

(昭和八)シカゴ万国博覧会に出品。大正天皇の即位式用品や、今上天皇の大礼献上品などの製作をしている。第一三回帝展(一九三三)の竹製宮、第一五回帝展の竹風爐、先屏風は特選となり、文展ではしばしば審査員を務め、芸術院会員となり、日本工芸会の理事を務めた。竹工芸界における業績は、精巧できめの細かな竹技と独創的で斬新な意匠で表現された彼の作品によって、いわば、日常生活用具の竹細工を、美的で鑑賞性に富んだ芸術品に引き上げたことにある。代表作に花籠「銘あんこう」(東京国立近代美術館)、花籠「富貴」(京都国立近代美術館)などがある。



飯塚狼彦 花籠「富貴」 1925年 ころ 高70cm 京都国立近代美術館

が散在している。鎌倉時代から修験者の道場になり、とくに飯縄忍法の発祥地として名高い。山頂には雑木の小木しかないが、山麓はカラマツ樹海をなす。頂上からは、浅間山、ハケ岳連峰、北アルプスの全容が眺められてすばらしい。山腹にはスキー場が開設され、山麓は一大別荘地帯をなし、長野市民のレクリエーション地をなす。山麓には戸隠有料道路(パードライ)が通じている。

飯豊(町) いいで(まち) 山形県南部、西置賜郡にある町。一九五八年(昭和三十三年)飯豊村が

中津川村を編入して町制施行。南部の飯豊山地に源を発する白川の流域を占める農山村。上流の中津川地区は林業にかわって肉牛飼育やゼンマイ、ナメコなど山菜の採取、加工が盛んな純山村である。多目的ダム白川ダムがある。下流部は長井盆地に属する平坦地で、水稲単作地帯。国鉄米坂線、国道一三三号が通じる。人口一万〇二二〇。

《中川 重》

④郷土の歴史(一九五五・飯豊町文化財研究会)

⑤五万分之一地形図「手ノ子」「赤湯」「玉庭」

飯豊山 いいでさん 新潟、福島、山形三県の

県境付近にある名山。磐梯朝日国立公園に含まれる飯豊山地の主峰。標高二一〇五m。山体は古生代の花崗岩から構成され、壮年期的侵食を受けた険しい山で、頂上は準平原面をなす花崗岩の小平坦面をもち、地元民の信仰の厚い飯豊山神社(福島県山形市)の奥社がある。付近は高山植物の宝庫でお花畑になっている。表登山口は、赤谷から湯ノ平温泉を経て、北股岳―御西岳―飯豊山で、尾根歩きの縦走コースの眺望がすばらしい。

《山崎久雄》

⑥五万分之一地形図「飯豊山」

飯豊山 山形、福島、山形の

三県にまたがる山地。主峰飯豊山(二一〇五m)を中心に、三國岳(二〇三三m)、御西岳(二〇二二m)などの中心尾根筋から、大日岳(二一三三m)連峰、二王子岳(二〇三三m)、杖差岳(二〇六六m)連峰など多くの支脈に分かれている。雄大な東北的山岳美を誇る深山で、山体は越後山系の秩父古成層に貫入した花崗岩類から構成され、山頂部は晩古生代の侵食を受けて険峻な山容を呈し、第二次世界大戦前までは専門の登山家の間でも敷きぎの危険な山といわれていた。西麓の加治川上流や、北麓の関川村大石川の上流には、石英粗面岩や花崗岩に含まれた鉱脈が古くから開発され、赤谷鉱山の硫化鉄鉱、大沼鉱山の金銀銅などが有名であったが、いまはほとんど休鉱になっている。戦後、磐梯朝日国立公園に指定されてからは、急激に登山道の開発が進み、赤谷から飯豊川の谷を登る赤谷口、胎内川の谷をさかのぼる胎内口、鹿瀬町の美川谷の美川口、関川村の大石川の谷を登る大石口、山形県の小国盆地から登る玉川口など五つの登山道がある。全山ブナの原始林に覆われ、カモシカ、クマ、サル、リスなどの野生動物の多生息地としても有名。

《山崎久雄》

井伊直弼 いいなおすけ(一八一六―一八五九) 江戸末期の幕府の大老。彦根藩第一三代藩主。日米修好通商条約を締結調印し、安政の大獄の中心人物。桜田門外で暗殺された。文化二年一月二十九日、彦根藩三十五万石の第一代城主直中の一四男として彦根城内に生まれる。母は側室お富の方(江戸麹町半町伊勢屋十兵衛の女)。父五〇歳、母三二歳のときの子で、直中はすでに家督を直亮(三男、第一二代藩主)に譲っていたから、両親の愛を一身に集めて成長した。一八三一年(天保二)一七歳の直弼は、井伊家の家風に從って、藩から三〇〇俵の宛行扶持をもらい、彦根城中の機御殿を出て、第三郭の尾末町の北の御屋敷に移った。この北の御屋敷を埋木舎と名づけ、四十六年(弘化三)直亮の養子となるまでの一五年間、ここで部屋住みの生活をした。この埋木舎は「これ世を厭ふにもあらず、はた世を食ふるときかよき心しおかざれば、望み願ふこともあらず、たゞうもれ木の籠り居て、なすべき業をなさしとおもひ設け」(埋木舎の記)たものであった。この埋木舎時代に「なすべき業」として、直弼は禅、居合、兵学、茶道(代表作「茶湯一会集」あり)など教養を積んだ。さらに国学者長野義言(通

起諸文前書

[illegible]

梵天帝釋四大天王惣持
日本國伊豆稻佐所大
神祇磐井豆稻佐所大
神祇大明神八幡大菩薩
天滿大自在天神部類會
神罰裏罰各可罷愛者也仍
起請如件

升伴攝部頭

安政五年午年四月廿五日

一八五八年（安政五）直弼は大老に就任、將軍繼嗣には慶福を決定し、さらに勅許を得ないまま日米修好通商条約に調印した。繼嗣問題に敗れた一橋派は連動調印を理由に一齊に井伊政変に立ち上がり、ここに反幕運動としての尊攘運動に火がついた。幕府の危機をみてとった直弼は徹底した弾圧策をとり、翌年にかけていわゆる安政の大獄を引き起こした。直弼の論理は大政委任を受けた幕府が「臨機の権道」をとるの^は当然で、「勅許を待たざる重罪は甘んじて我等一人に受候決意」（公用方秘録）というにあった。しかし、直弼のこの弾圧政策は、六〇年（万延二）三月三日の桜田門外の変として彼の横死を招いたのである。井伊直弼の評価は「不忠の臣」とか「開国の恩人」など、時代によって大きく振幅がある。↓安政の大獄 ↓桜田門外の変

△田中 彰

◎吉田常吉著『井伊直弼』（九六三・吉川弘文館）

井伊直孝 いいなおか （一九五〇・一六五五） 江戸初期、幕閣の元老の第一人者。駿河国（静岡県）藤枝に生まれる。直政の庶子。兄直勝が多

が直弼であり、攘夷主義をとった徳川斉昭（一八一〇—一八六八）以下、松平慶永（春嶽、越前藩主）、島津斉彬（薩摩藩主）らによって代表されるもの大廊下詰家門大名、大広間詰外様大名とした。将軍に對立するに至った。この對立は第一三代将軍徳川家定の繼嗣問題と絡んで、所謂先鋭となつた家門・外様大名一派（一橋派）が、「年長、英明、人望」を將軍繼嗣の原則として一橋慶喜（斉昭第七子）を担いだのに対し、直弼なら「血脉」を強調して紀州藩主徳川慶福（のち家茂）を推した。

稱主馬、のち主膳、号を桃畑舎に師事し、国学、歌道、古学などを学び、また彼を重用した。

一八五〇年（嘉永三）直亮の死去により直弼は彦根藩を襲封、掃部頭と称した。ときに数え年三六歳。五年のペリー来航以降、外圧によって幕藩体制は揺らぎ、翌四年（安政一）の日米和親条約で幕府の「祖法」としての鎖国体制は崩れ始めた。開国政策をとった老中堀田正睦（佐倉藩主）は溜間詰大名に支持されたが、これらの譜代大名を牛耳っていたの

病のため彦根十五万石を相続した。大坂冬の陣、夏の陣に先鋒で軍功をあげ、領知を五万石加増され、さらに一六一七年（元和三）にも五万石の加増を受けた。二代將軍徳川秀忠の没後、松平忠明らと一時幕政に参与した。三三年（寛永一〇）にも五万石（下野佐野、武蔵世田谷）の加増があり、あわせて三十万石を領した。これは譜代大名中拔群の領知高で、徳川氏の重鎮的地位が確定された。秀忠、家光、家綱三代に仕え、三四年より江戸に終身定住する。幕閣の主要な会議には常時出席して幕政に献身し、元老として重んぜられた。直孝は決断力に優れ、また、質素儉約を重んじたことで徳川家康に似ていた。万治二年六月二八日死去。墓所は東京・世田谷の豪徳寺。

〈煎本増文〉

煎本増夫

井伊直政 いいなおまさ (一六一一—一六〇一) 徳川氏の五か国領有期から江戸初期の家康の重臣。遠江国(静岡県)井伊谷に生まれ、幼名は万千代。井伊氏は代々西遠江の名族で、父直親は織田・徳川氏と通じているとの理由で、主君今川氏真によって謀殺された。わずかに二歳であった直政は死を免れ、一五七五年(天正三)一五歳のとき浜松で家康に対面し、小姓に取り立てられた。以後、若年で家康旗本軍の有力武将となり、また、政務にも重要な役割を果たし、家康側近勢力の第一人者となった。直政軍団の主力は武田氏旧臣で、兵具を赤色としたので井伊の「赤備」で有名となり、直政は「赤鬼」の異称があった。関東入部後、上野国(群馬県)箕輪城十二万石を封与、関ヶ原の戦い後、近江国(滋賀県)佐和山城に転じ十八万石を領した。

〈煎本増夫〉

煎本増夫

飯梨川 いいなしがわ 島根県東部を流れる川。中国山地の玉峰山を源とし、能義郡と安来市を北東流して中海に注ぐ。延長四二キ。上流は比田川、中流は布部川、本流は富田川ともよぶ。古来、砂鉄採取による天井川で、河道変遷が著しい。近年河床から中世城下町遺構の発掘がなされた。上流部に布部、山佐ダムがあり、下流デルタでは園芸農業が盛ん。〈矢野 博〉

許嫁 いいなすけ 「言い名づける」という語の連用形の名詞化したものといわれている。「結納づけ」あるいは「忌名づけ」の訛りともいわれて、「いいな」は夫が妻につける名のことという説もある。親あるいは親代わりの者が、幼い子女の結婚をあらかじめ約束する、またはその約束を結んだ者同士をさしているの

が、いま普通に使われている「いいなづけ」の概念である。このことばは早く室町時代から使われていたらしいが、戦乱の世では政略に女性の結婚が使われた時代として納得できる。男が女の名を知ることとは、すなわちその女性を占有することであった古代の習わしは、『万葉集巻頭の長歌でも知られているが、この時代は結婚の前提として当事者同士の交流の一手段であったと思われる。これに対して後世の「いいなづけ」は、当事者の意志には関係なく取り交わされたものであったから、これによって一生を悲運に泣いた女性の物語は、数多く残されている。良きにつけ悪しきにつけ、いいなづけの風習は、このごろではほとんど聞かれなくなつた。↓婚姻

（丸山久子）

丸山久子

飯南(町) いなん(ちよう) 三重県中南部にある町。一九五六年(昭和三十一年)柿野町と粥見町が合併して成立。町名は郡名による。国道一六六号、三三八号が通じる。中央構造線に沿う櫛田川の中流に位置し、段丘上に集落が並ぶが、耕地率わずか七％の山村である。林業と製材が主産業で、杉皮を特産するほか、シタケ、茶、肉牛(松阪牛)、ニシキゴイを産する。櫛田川の溪流はアユ、アマゴの釣り場でも知られる。本郷の羯鼓踊は県の無形民俗文化財。人口七二五七。

《伊藤達雄》

〈伊藤達雄〉

地五万分の一地形図「丹生」
 飯沼慾斎 いぬぬまよくさき (七三)／三六一六
 (六五) 幕末期の植物学者。伊勢国亀山西町(三重県亀山市)の藩御用商人西村信左衛門の次男として生まれる。幼名は本平、のちに専吾、名は守之、長順、号は慾斎、字は龍天となり、二八歳のとき江戸に出て、宇田川樸斎、藤井芳亭に蘭学を学び、大垣に帰り、蘭方医を開業する。一八三二年(天保三)隠居して、大垣近郊の長松村(大垣市長松町)にある別荘平林荘で、博

博



飯沼慾斎 画像 大阪 杏雨書屋

物理学の研究に専念した。四三年三男興斎を宇田川榕菴の養子に出す。日本で最初のリンネ分類による植物図譜『草木図説』を執筆し、草部二〇巻、木部一〇巻を完成させたが、江戸時代におけるヨーロッパ植物学を受容と理解の成果をここにみることが出来る。草部は五六年（安政三）から六二年（文久二）にかけて出版された。木部は江戸時代には未刊。墓は大垣市安井町の縁覚寺にある。→草木図説（矢部一郎）

飯野 いのの 宮崎県南部、えびの市の一地区。旧飯野町。加久藤盆地東部にあり、小林市に接する。中世は荘園真幸院に属した。一五七二年（元亀三）木崎原での島津、伊東氏の合戦の結果、薩摩藩支配となった。→えびの（市）（横山淳一）

（五）五万分の一地形図「加久藤」

飯野（町） いのの（まち） 福島県北部、伊達郡にある町。一九三七年（昭和一二）町制施行。五五年青木、大久保、明治の三村と合併。国道一四号が走り、福島市から国鉄バスが通じる。阿武隈高地西縁の丘陵地にあり、町域の西境を阿武隈川が峡谷をつくって流れ、ダムも設けられた。古来、絹織物業が盛んで、現在は化学繊維物が加わり、通信機部品などの工場もある。県史跡に縄文期の飯野白山住居跡がある。人口七六五〇。

（四）二万五千分の一地形図「川俣」

飯野川 いののがわ 宮城県北東部、桃生郡河北町の中心地区。旧飯野川町。新北上川が追波川となって東流する地域の左岸に位置する。河川交通時代には水陸の連絡地として繁栄した。→河北（町）

飯野藩 いののはん 上総国飯野（千葉県富津市飯野）に藩庁を置いた譜代小藩。藩主保科氏。藩祖正貞は高遠城主正直の三子。幼少より徳川家康に近侍した。一六二九年（寛永六）榎米三千俵を受け、ついでこれを改め上総国周准・下総国香取両郡のうちで三千石の采地を受けた。三〇年には大番頭に進み、三三年には四千石の加増を受けた。四八年（慶安一）には大坂定番に昇進し、摂津国（大阪府・兵庫県）豊島、川辺、能勢、有馬四郡内において一万石を加増され、一万七千石を領有して、飯野に居所を営み立藩した。正貞のあと正景は義弟正英に二千石を分与し、一万五千石を領有していたが、一六七七年（延宝五）大坂定番に就任し、丹波国（京都府）天田郡内において五千石を加

増され、二万石を領有した。正貞以降、正景、正賢、正殿、正寿（大坂定番）、正富、正率（大坂定番）、正徳、正正、正益（若年寄）と一代、約二〇〇年余にわたり在封した。一八七一年（明治四）正益のとき廃藩となり、飯野の地は飯野県、木更津県を経て、千葉県に編入された。（川村 優）

（四）千葉県史料 近代篇 明治初期一（一九六・千葉県）

井伊谷 いのやぐ 静岡県引佐郡引佐町井伊谷に鎮座。祭神は後醍醐天皇の皇子、宗良親王。親王は比叡山門跡寺院妙法院に入り、尊澄法親王と称し、天台座主となったが、足利尊氏に背くや還俗し、征東將軍として遠江（静岡県）、駿河（静岡県）、信濃（長野県）、甲斐（山梨県）、美濃（岐阜県南部）、越中（富山県）、越後（新潟県）などを転戦。一三八五年（元中二・至徳二）当地で崩じたと伝える。

一八六八年（明治一）神社造営の議があり、彦根藩主井伊直憲が先祖の縁で尽力、七二年に遷座した。旧官幣中社。例祭は九月二二日。（平泉隆房）

井伊谷藩 いのやはん 遠江国引佐郡井伊谷（静岡県引佐町）に置かれた譜代藩。一六一九年（元和五）近藤秀用が一万石で入封、のち加増で一万七千石となる。秀用は徳川家康の遠州入りに尽力した一人で、大坂の役で活躍。三一年（寛永八）秀用の死に臨み、所領を一族の金子近藤（三千石）、氣賀近藤（五千三百石）、花平近藤（五百石）と、本家筋の井伊谷近藤に分与し、さらに氣賀近藤が大谷近藤（二千石）と分かれて五近藤（旗本）となり、藩を解体した。（渡辺和敏）

飯野山 いのやま 香川県中北部、坂出市、丸亀市、綾歌郡飯山町の境をなす山。山容は円錐形で讃岐富士ともいふ。讃岐平野に突出する独立峰で、その姿を四方から眺めることができ、「箱庭」といわれる讃岐平野の一点景をなす。標高四二二メートル。ピュートといわれる侵食残丘で、基層をなす花崗岩の上に輝石安山岩がのっている。歌にも多く詠まれ、西行は「讃岐にはこれを富士といひの山朝けの煙たぬ日もなし」と詠んでいる。山麓にはモモ、ブドウなどの果樹が多く栽培され、モモの開花期は美しい。山頂には薬師堂がある。瀬戸内海国立公園に属する。裾野は最近住宅地化が進みつつある。（稲田道彦）

（四）二万五千分の一地形図「丸亀」

飯盛（町） いもり（ちょう） 長崎県南部、北高来郡にある町。長崎、諫早両市の間に位置する。一九六五年（昭和四〇）町制施行。町の中央の馬場地区の南部は、ラグーン（潟）であったが、元禄年間（一六八七～一七〇四）に干拓され水田地帯となった。その東部は丘陵地帯で、畑作を主とし、ショウガ、ニンジン、ジャガイモを生産し、とくにショウガは天保年間（一八三〇～一八六〇）以来生産され、長崎市戸石地区、諫早市有喜地区とともに全国有数の特産地で、その生産量は二六〇〇トンに達し、全国に出荷される。最近では畑地灌漑による栽培や、水田におけるハウス栽培も登場している。橘湾沿岸の漁村では、小型底引網、小型定置網、タコ壺などの零細漁業が行われている。人口八〇七三。（石井泰義）

（五）五万分の一地形図「肥前小浜」長崎

飯盛里安 いもりさとやす （一八五二～一九六三）化学者。石川県に加藤里衡の二男として生まれ、飯盛提造の養子となる。一九一〇年（明治四三）東京帝国大学理科大学化学科を卒業、大学院に進み、一四年（大正三）母校の講師、一七年理化学研究所員、二二年同主任研究員となった。この間、イギリスに留学し、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学で冶金学および放射体化学を学び、帰国後、日本産放射性鉱物の放射性・発光性に関する研究を行い、二一年感光発電電池の研究で日本化学会校員褒賞を得た。四四年（昭和一九）には希元素の研究で朝日文化賞、四五年には「稀元素鉱物に放射性及発光性鉱物に関する研究」で学士院賞を受賞した。四五年理研稀元素工業株式会社取締役会長に就任。著書に『分析化学』『放射化学実験法』『天然物放射能』などがある。（道家達将）

飯盛山 いもりやま 福島県中央部、会津若松市にある山。標高三七〇メートル。この山の山麓部の緩斜地が、戊辰戦争のとき会津藩の白虎隊二〇名が自刃した地として知られる。若松城下からの白川街道（江戸街道）滝沢口近くに位置し、隊士の墓や厳島神社、宇賀神社、円通三匠堂（さきえ堂）がある。（安田初雄）

（四）二万五千分の一地形図「会津広田」

飯盛山 いもりやま 大阪府中東部、大東市にある生駒山地の一支峰。標高三二八メートル。金剛生駒国定公園に属す。西麓を東高野街道が通り、京都を扼する要衝地として、南北朝から室町時代には山頂に城が構えられた。一三三四年

（建武一）楠木正成がここを攻略し、一三四八年（正平三・貞和四）楠木正行が麓の四条畷で戦死した。一五三二年（天文二）畠山氏と細川氏の争奪の戦いがあり、一五六〇年（永禄三）には三好長慶が居城を構えた。山頂に往時の石塁をとどめる。（位野木寿一）

（四）二万五千分の一地形図「生駒山」

飯山（市） いやま 長野県の北部、千曲川下流にある市。一九五四年（昭和二九）飯山町と秋津、柳原、外様、常盤、瑞穂、木島の六村が合併し市制施行。五六年太田、岡山の二村を編入。付近一帯は小盆地をなし、冬期は豪雪地となる。県の北端に近く、交通も不便なため、奥信濃ともよばれる。国鉄飯山線、国道一一七号、二九二号が通じるほか、長野電鉄の便もある。一五七九年（天正七）ごろ上杉謙信の築造で積雪地のため、市勢は停滞気味である。江戸初期までは交通の表街道（飯山街道）で越後（新潟県）との交流が盛んであったが、以後は主要街道から外れてしまった。江戸時代は飯山藩の城下町でもある。市街地は小高い丘上の飯山城跡を中心として城下町当時のようが残り、寺町、町人町、武家屋敷はいまはそれぞれ仏壇の町や、商店街、官公庁地区になっている。代表的産業としては仏壇や和紙のほかスキー製作がある。道路には消雪パイプが埋設されていて雪国らしい。城跡は信州では遅い四月下旬のサクラの名所としてにぎわう。臨済宗中興の祖といわれる白隠禪師が修行した正受庵や島崎藤村の『破戒』に出てくる真宗寺、室町時代の建造になる白山神社など古社寺が多い。北部や西部の山地には近年スキー場が開設され、斑尾高原や戸狩は豊富な積雪で冬期はにぎわう。人口三万〇七三。（小林寛義）

（四）飯島貴編『飯山史』（一九九・飯山図書館）

（五）五万分の一地形図「飯山」

飯山線 いやせん 日本国有鉄道の線路名称。長野（長野県）・越後川口（新潟県）間九六・七キロ、全線単線。信濃川の渓谷沿いに走り、長野、長岡の両地方を結ぶ。沿線は豪雪地帯で知られ、飯山、十日町などの都市がある。列車は信越本線に乗り入れ長野に直通運転される。長野・十日町間は飯山鉄道として一九二二～二九年（大正一〇～昭和四）、十日町・越後川口間は国鉄十日町線として二七年にそれぞれ開業し、四四年、飯山鉄道の国有化により両線

をあわせて飯山線と改称された。〈青木栄一〉
飯山藩 いいやまはん 信濃国飯山城（長野県飯山市）を居城に奥信濃を領有した小藩。上杉景勝の会津移封により一五九八年（慶長三）豊臣大名関一政（三万石）が入ったのが初め。森忠政、松平忠輝の支城時代を経て一六〇一年堀直寄（四万石）が入封し、千曲川治水、城下町整備などを進め、藩支配の基礎固めをした。これを受けて藩政を確立したのは、一六年（元和二）入封の佐久間氏三代（三万石）を挟んで、三九年（寛永一六）に入った松平（桜井）忠俱（四万石）で、孫忠喬とも二代六八八年間に領内総検地、貢租と百姓身分の整理、野田喜左衛門を起用した用水開削などを行った。以後一七〇六年（宝永三）永井直敬（三万三千石）、一七年（正徳一）青山幸伯（四万八千石）、一七年（享保二）本多助芳（二万石）が次々と入封、松平氏の藩政を踏襲した。本多氏は康明、助有、助益、助受、助賢、助実、助成、助龍と在封して廃藩に及んだ。一八七一年（明治四）飯山県から長野県に統合された。〈古川貞雄〉
 田中修一編『飯山町誌』（九五・飯山市公民館）

伊井蓉峰 いいようほう （一八一七—一九三）俳優。写真師北庭筑波の子として東京・日本橋に生まれる。独逸学協会に学び、一時は神戸三井銀行に勤めたが、一八九一年（明治二四）の済美館演劇に参加し、千歳米坂の相手役を演じて美男俳優として認められた。彼には川上音二郎らの壮士芝居とは異なる出発をしたという意識が強く、実際に芸風も彼らとは違い、旧派俳優と一座して歌舞伎の演目を手がけたり、文芸作品の劇化上演を試みたりした。また、一九〇二年（明治三五）から約四年間にわたる近松研究の成果はかなり注目された。明治末には名実ともに新派の第一人者となり、大正期には河合武雄、喜多村緑郎とともに活躍して今日の新派の基礎を築いた。〈松本伸子〉

医院 いん 診療所
委員会制度 いんかいせいど 広義には、一定の目的をもって設立され、複数の委員によって構成される合議制の組織体によって運営される制度をいう。狭義には、①国または地方公共団体の機関としての議会に、本会議に先だつ審議機関としての委員会を設置してその運営を図ること、②国または地方公共団体の合議制行政機関の一種としての行政委員会制度、③主として

アメリカの地方自治体の組織形態の一で、公選の委員からなる委員会に立法、行政の両作用を集中させて運営する制度、のいずれかをさす。

〔議会委員会〕議会運営については、その実質的審議に関し本会議と委員会のいずれに重点を置くかによって、本会議中心主義と委員会中心主義に分けられる。本会議中心主義の代表例はイギリスの国会で、委員会中心主義の代表例はアメリカの議会である。わが国では、明治憲法下の帝国議会が前者で、現行憲法下の国会は後者である。都道府県、市町村議会も国会に倣って委員会制を採用している。現代国家においては、全議員を構成員とする本会議において審議を尽くすことを原則とする本会議中心主義をとる場合、議案の増加、専門的・技術的知識の必要性などから十分に審議を尽くすことが困難である。委員会中心主義では、少数の各委員会ごとに、付託された案件の審査が行われる点で、委員の専門的知識、自由な討議、審議の効率化という長所がある。反面、本会議が施政方針演説や各党代表質問、重要法案についても提案理由の説明のみで議案の表決、という形式的なものになるなどの欠点もある。

わが国における現行制度は、衆議院、参議院は、それぞれ全議員を構成員とする本会議のほか、本会議に付すべき議案をあらかじめ審査するために、国会法により委員会を設けている。委員会には、常任委員会と特別委員会の二種類がある。各委員会は、議長により付託された議案の審査を行うが、常任委員会（内閣、地方行政、法務、外務、大蔵、文教、社会労働、農林水産、商工、運輸、通信、建設、予算、決算、議院運営、懲罰、科学技術、環境の一八委員会。ただし参議院は、科学技術、環境を除く一六委員会）は、付託される議案の有無にかかわらず常設され、特別委員会は、各院においてとくに必要があると認めた案件、または、いずれの常任委員会の所管にも属さない特定の案件を審査するために設置される。議員は少なくとも一つの常任委員となるが、議長、副議長、内閣総理大臣その他の國務大臣、内閣官房副長官、総理府総務副長官および政務次官は、割り当てられた常任委員を辞することができ、慣例上常任委員とならない。常任委員および特別委員は、各会派の所属議員数の比率により割り当てられる。委員会は、国会の会期中に限り審

査を行うが、各議院の議決でとくに付託された案件については、閉会中も審査することができ、委員会公聴会を開くことができ、また、議員以外の傍聴は報道関係者その他、委員長が許可した者に限られる。常任委員長は各議院において常任委員のなかから選挙で、また特別委員長は委員会の互選で選任される。各委員長は、委員会の経過および結果を議院に報告する。

〔行政委員会〕独立行政委員会ともいう。国家事務の一部を合議制の機関で処理する方式は、古くから英米法系諸国の伝統であるが、とくに一九世紀後半のアメリカにおいて、資本主義社会の高度の発展に伴い、それに起因する種々の社会的問題の解決のため、行政委員会制度が広く採用されるようになった。これらの問題の解決には、党派的あるいは政治的権力からの独立性の必要、私権の保護と適法手続の保障の要請、裁判所による事後の救済の不完全さなどの理由から、大統領府から独立し、議会に支配される行政委員会によって処理することが適切であるため、多くの行政委員会が設立されることになった。

第二次世界大戦後のわが国における行政委員会も、占領行政に起因するアメリカの制度の直接的継受である。戦前においても合議制の行政機関は存在したが、大部分は諮問機関か調査機関であって、法律上、独立して権限を行使する行政庁ではなかった。行政委員会の特色は、内閣から一定の独立性を有し、その構成において中立性ないし非党派性が要求され、権限行使において、特定の行政権に加えて、準立法的作用はいは準司法的作用を有することにある。戦後、中央集権的官僚行政を打破し、行政の分権化、民主化の一環として広く採用された行政委員会は、もともと多い時期で国家機関のみで二〇を数えたが、その占領政策の変更、民主化の後退とともに約半数になり、存続する委員会もその権限が縮小され、独立性も弱くなった。行政委員会については、行政の民主化、中立性の確保、専門的知識の必要性、私権保護と利害調整などの現地からの積極的評価と、行政責任の不明確、能率性の欠如、不必要な機構の拡大、中立性確保の困難などの理由、および憲法第六五条（行政権は、内閣に属する）に関連して批判的見解がある。

現在、行政委員会は、国家行政組織法に定める、公正取引・国家公安・公害等調整（以上総理府）、司法試験管理・公安審査（以上法務省）、船員労働（運輸省）、中央労働・公共企業体等労働（以上労働省）の各委員会のほか、人事院（国家公務員法）、労働者災害補償保険審査会（労働者災害補償審査会法）などがあり、また地方公共団体の機関としては、地方自治法により、教育、選挙管理、人事または公平、監査の各委員会、都道府県のみには置かれるものは、公安、地方労働、取用、海区漁業調整、内水面漁場管理の各委員会、市町村のみには置かれるものに、農業、固定資産評価審査の各委員会がある。

〔委員会制〕アメリカなどにおける地方自治体、とくに市における統治組織形態の一つ。アメリカの市においては、州憲法の規定の仕方によっては、自治憲章により自らその組織形態を定めることができるため、大別して、市長市会制 mayor and council system、市支配人制 city manager system、委員会制 commission plan の三種の型がある。

市長市会制は、わが国のモデルとなったもので、市長および市議会議員が、ともに公選によって選出され、両機関の分立が明らかである。市支配人制は、市議会が有能な行政専門家を支配人として都市経営をゆだねる方式である。これに対して委員会制は、立法と行政を同一機関に行わせるもので、公選による議員（委員）が、議会（委員会）を構成するとともに、委員会の各委員が行政各部の長となり、委員長が市政の代表者として市民の立場にたつ。一八七〇年のニューオーリンズ市をはじめとして、現在アメリカの約八〇％の市が委員会制を採用している。

〈山野一美〉

〔経営学上の委員会制度〕関係者の衆知を集めて優れた結論を引き出すことを目的として、あるいは関係者相互間の意思疎通を円滑にして相互調整をすることを目的として、組織内に設けられる会議体。前者の目的によるものを合議・決定のための委員会、後者のそれを協議・協調のための委員会という。委員会制度は、通常の定常的組織を補強するために用いられるが、この制度には、時間の浪費、決定責任の所在の不明確化、創造の抑圧と安全な結論の採択といった欠陥が付きまといっている。そこで委員会の設置には、組織構成員の参画を必要とするような重要な問題、相互依存性の高い問題などに課題

を限定するなど、議事運営に対する配慮が必要である。

〔森本三男〕

家 いえ 単に家屋をさす場合のほか、中国の家（父系大家族）とは異なる特徴をもつ日本のイエ制度に基づく家族集団をさすことが普通である。また明治以来の民法における家制度（民法上の家族制度）とも区別され、日本の社会で古代より近代に及ぶ社会構造とその変動のなかで示された特徴的な生活共同の単位がイエとして把握される。古代日本の郷土の法的制度のもとでも生活共同の単位としてイエが存在し、氏は氏の上の同族を頂点とする同族連合であったとみられ、中世の同党にも同様に同族連合の構造が指摘される。

〔家長と家産継承〕家の制度が十分具体的に検討できる近世、近代に示した姿は次のようである。家は家長夫婦を中心としてその親族関係者の一部、ときには住込み奉公人（同居する非親族の従属者）をもその成員とし、日常起居をもにする人々の生活共同体であった。家は家長夫婦一世代限りのものではなく、代々の家長により継承され、成員個人の新陳代謝にかかわらず存続する集団であり制度体であった。同じ家が何代にもわたって存続することは事実上たやすいことではなかったが、家長夫婦を中心に家の成員すべてが家業に団結協力して家の永続と繁栄を図るために献身的に働くことが理想とされ、家長夫婦の一世代を過ぎても、その役割を継承するはずの跡取りがあらかじめ決められ、跡取り息子には嫁をとり、普通は二世代、まれには三世代にもわたる夫婦が同居して、家の連続性を示すのをめざした。以上として貴んだ。代々の家長の生涯を超えて数代またはそれ以上にわたって同じ家の家系が絶えないことは、その家の社会的基礎の強固さを示し、優れた家柄、高い家格をもつとみなされ、また、そのような家から分家することにより創立された新しい家も、そうした本家につながるものとして評価された。

中国の家が多子相続制であったのに対して、日本の家（直系家族 stem family）は、一子相続制であり、跡取りとされたただ一人の子とその配偶者だけが両親の家にとどまり、次代家長夫婦という地位役割を継承するとともに家産を集中的に相続した。跡取りは普通は息子、長男だけとは限らず、家業継承との関連上、適任者が選ばれ、かならずしもつねに息子に譲るとも

限らないのが庶民の家であり、跡取り娘に有能な婿をとり次代家長夫婦とすることも、ことに実力を重んずる町家ではまれではなかった。父系による家系相続や長男相続を重視する儒教や武家の規範からみれば反則とされた庶民の家の、このような柔軟性に富む方法を、武家や儒教の家系継承の観点からみて、尊重するに足りない劣った慣習だとみなした明治政府は、父系長男相続を民法に定め、以後国民全体の守るべき「家」家族制度とした。ただ、息子のいない場合、娘に婿養子をとって次代家長とすることは認められた。しかし、このような明治の民法以前には、前記のような跡取り設定における柔軟性が、しばしば庶民の家の永続繁栄に効果を

示した。家が父系の血筋により継承されることは庶民の場合も望ましいこととされたわけではないにしても、家そのものの永続繁栄を求めることこそ至上目的とされたから、息子のいない場合に養子を入れるにしても、父系親族であるかないかによりこだわらず、姻族や住込み奉公人を跡取り養子として養育することさえみられた。跡取り娘に婿をとり次代家長とする場合も同様で、その次の跡取りを定めるときも父系親族による継承には、さほどこだわらなかった。日本の家における家長夫婦の地位役割の継承に際して、長男とか父系とかに継承者を限定することをしなかった点で、日本の家を父系家族と規定する通説はかならずしも肯定されず、むしろ非単系 non unilineal とみるべきだとされるのはこのためである。ことに跡取り娘への婿取りや、そうした結婚をさえ伴わない跡取り養子の養育が、単に少数の例外とはいえない頻度でみいだされることを軽視すべきではない。

〔本家・分家・別家〕明治の民法による影響が強まり、他方では家産に基づく家業経営（農工商の自営など）の比重が弱まる（近代的雇用によって生計を立てる世帯が増加する）のと同様に、家のあり方は変化してきた。分家・別家についても同様であった。

近世から近代初期までは一般的であった家生活においては、庶民の家で家長の指揮下にあって家業経営内で働く住込みの奉公人は、同居している家長夫婦の親族関係者の場合に準じて同様にその家の成員とみなされてきた。親族・非親族による区別はあったにせよ、彼らはともに家の成員として、一方で非後嗣（跡取りでな

い）親族員である者が配偶者を得て分家初代夫婦となり、その家から分かれた新しい家を創設してもらったのと同様に、他方では非親族の子飼住込み奉公人が、主家であるその家から別家（奉公人分家）を創設してもらってその新しい家の初代家長となることもみられた。親族分家も奉公人分家とともに、その本家家産の一部をわずかなりとも分与され、新しく立てられた家（新家・分家初代）の生活を始めるようにしてやれば、本家は彼らのために分家を創設してやったとはいえなかった。分家の生計は本家に依存し庇護を受けることによって成り立ち、本家はそうした親族分家や奉公人分家をもつことにより有力さを増した。このような本家・分家の家連合を社会学では同族団（略称同族）とよんでいる。

本家の家業経営は大きく、分家・別家の家業は、本家家業経営内へ通勤することによるか、もしくは本家の家業経営に従属しつつ各自の家業を自営するかの二つ。前者の場合はもちろんであるが、後者の場合でも分家・別家の経営は広義での本家経営の内に置かれた下級経営（副次的経営単位）としての意味をもつものであった。家産に基づき家の（加えて分家・別家の）成員の労働を組織して家業が経営される場合、家における家事家政の運営と家業経営とは不可分に家産の運営のうえに成立していた。そして家計と家業上の経理とが分かちがたく結び付いていた。

家はまた、その家の先祖祀りを家事家政の宗教的側面として重視し、家業の永続繁栄は先祖により守護されるものと考えられた。各家が初代家長以来の死者を祀るとともに、分家初代であった先祖よりさらにさかのぼる本家の先祖を祀るため本家の主催する法要にも参加した。

明治の民法における法律上の家制度では、家制度（集団）自体の財産だった家産（家を代表して家長が管理した）が、戸主（家長）個人の私有として扱われるようになったこと、戸主と親族関係を有しない住込み奉公人などは法律上では家の成員と認めず、したがって奉公人分家（別家）を法律上「分家」とは認めない結果となり、親族分家だけが「分家」として認められることになった。しかし、当初は奉公人を分家させようとするために、養子として親族に加えたうえで法制上の分家制度に一致させようとする例さえ現れた。もともと弱小な生

家が自力で子供を分家させるよりも、有力な他家へ子供のうちから住込み奉公させ、将来は主家から奉公人分家を創設してもらうことで、その子の創設すべき家の社会的地位を高めようとしたのである。

生みの親にかわって親方となった家長は、このように子飼住込み奉公人を養育し、実子に準ずる家成員とみたら、跡取りでない実子の場合と同様に、その家から分家させたり、婿や嫁に出したりしてくれることが期待され、実際にその役割を果たしたのである。

俸給による雇用が一般化すると、このような住込み奉公を前提とする奉公人分家の制度は衰え、第二次世界大戦下の人手不足により消滅した。それまでは民法の規定とは別な慣習上の家成員として住込み奉公人があり、彼らによる奉公人分家も存在したのである。↓家族 ↓家族制度

④『日本家族制度と小作制度』（中野卓他編）『賀喜左衛門著作集Ⅰ・Ⅱ』所収・元六・未来社）▽有賀喜左衛門著『家』（至文堂・日本歴史新書）▽同志社大学人文科学研究所編『共同研究 日本の家』（二六・国書刊行会）▽中野卓著『商家同族団の研究』上下（第二版・一九六・未来社）▽喜多野清一著『家と同族の基礎理論』（一九六・未来社）

家 いえ 島崎藤村の長編小説。前編は一九一〇年（明治四三）一―五、後編は一九一一年（明治四四）一―五、『読売新聞』連載。後編第一―九章は翌二一年、四月の『中央公論』に「犠牲」の名で掲載。同年一月、『緑蔭叢書第参篇』として自費出版の際に、後編第一―十章を追加。藤村の生家島崎家と姉の婚家高瀬家をモデルとして、旧家の人々の退廃した生活感覚とそこから脱却しようとする小泉三吉（藤村）の苦闘を描く。三吉が目ざす「新しい家」は、経済的自立と夫婦の相互理解とをその基盤にする近代的な家庭だが、それは、彼の経済的援助を当然と考える一族や、彼自身のなかを流れる旧家の誇り、または性的に乱れた血統の自覚、さらに妻との相克や日常生活の重みなどの理由で、ついに実現しない。歴史的視点に欠けるという批判もあるが、わが国の半封建的な家族制度の内部に焦点を絞り、両旧家の一二年間にわたる没落過程を通じてその陰湿な論理を浮かび上がらせた、自然主義文学の傑作である。

④『家』全二冊（新潮文庫）

〔十川信介〕



伊江村 沖縄戦の激戦地で、現在は島の3分の1は軍用地。従軍記者アーニー・パイルの戦死でも知られる。南から東岸にかけて白砂の海岸が展開する。農業を主にサバニ（くり舟）によるささやかな網漁も行われる

家 いえ 中国の作家巴金の長編小説。一九三一年作。『春』『秋』と続く「激流三部作」の第一編。作者の生家をモデルとした四川省成都の大官邸地主の家庭を舞台に、辛亥革命後の停滞を打ち破った五・四新文化運動の波に洗われ、最後のあがきをみせながら滅亡の道をたどる旧世代の人々、礼教の支配下にある家の重圧に抗しかねて死んでいく人々、自らが育った家に逆し、旧世代の人々に敢然と戦いを挑んで、その家を棄てて出ていく若者など、過渡期の群像を通して、形骸化した儒教道德の害毒と、新中国を生み出した青年たちのエネルギーを描いた現代中国文学の代表的作品の一つ。一九二〇年代中国の年代記ともいえる。

飯塚朗訳『家』上下（岩波文庫）
伊江（村） いえ（そん） 沖縄県国頭郡にある村。沖縄本島、本部半島の西方海上にある伊江島からなる。本部町渡久地新港からカーフェリーで約三十分。沖縄戦の激戦地。島の三分の一がいまも軍用地。産業は農業中心で、サトウキビ、葉タバコ、ラッカセイを栽培。沖縄三大悲歌劇『伊江島ハンドーク』の悲恋物語の舞台。青少年旅行村やニヤティヤガマ（洞窟）、アーニー・パイル記念碑などがある。人口五〇三九。↓伊江島

伊江村誌 上下（六〇・伊江村）
地二万五千分の一地形図「伊江島」

EHF イーエチエフ extremely high frequency の略称。国際電気通信条約による無線通信規則に定められている電波の周波数帯区分の一つで、その範囲は三〇・ギヘルツから三〇〇・ギヘルツである。この周波数帯の電波は普通、ミリ波あるいはミリメートル波とよばれている。↓ミリ波

波 ↓電波
イェウサギ ⇩ウサギ
イェカ「家蚊」(Culex spp. 昆虫綱双翅目糸角亜目カキ科イェカ属の種類の総称。世界中に六〇〇種以上生息し、人畜の吸血者としても伝染病媒介者としても重要な種を多く含む。成虫は静止時に体を水平にして止まる。幼虫は水中生活をするいわゆるボウフラで、呼吸管が細長く、これを水面に出して呼吸をし、頭部は普通水面下に沈めている。

〔日本産の重要種〕トラフカキイカ Culex (Lutizia) hufnagii は、人畜の吸血性はないが、幼虫がアカイエカ、ヤブカ、ユスリカなどの幼虫を捕食するので益虫である。害虫として重要なものは、ほとんどイェカ亜属に含まれる。コガタアカイエカ C. (Culex) tritaeniorhynchus は、体長三〜四の小型種で、体色は茶褐色。吻のはぼ中央部には体長の約四分の一の長さの黄白色部がある。日本各地および東南アジア、中央アジア、北アメリカに分布する。成虫は四月ごろから出現し、七〜八月が最盛期となり、成虫で越冬する。夜間活動する吸血性のカで、ヒトのほかブタ、ウシなどを好んで吸血する。卵は水面に固めて産み付けられる。卵数は二五〇個ぐらいで、卵期は二日。幼虫期は栄養や水温によって異なるが、二八度Cで八〜一〇日。蛹期は一〜五日。幼虫の発生源は水田、池沼、水槽などである。この力は、日本脳炎ウイルスを媒介する衛生害虫である。媒介の経路は、ブタなどを吸血した際にウイルスを得て、ヒトを刺したときに移す。

アカイエカ C. (Culex) pipiens pallens は、家屋に侵入してヒトを吸血する日本でもっとも普通の種である。体長三〜五の中型で、体は赤褐色を帯び、吻に黄白色帯がない。アカイエカはいくつかの亜種もしくは生態品種に分けられるが、本亜種はアジアの温帯地域に分布し、下水、漬物桶、肥溜跡、空き缶、ごみ処理場のくぼみなどの汚水に発生し、五〜一〇月ごろまでみられる。夜間に活動する吸血性のカで、ヒトのほか家畜、家禽などからも吸血する。ネッタイエカ C. (Culex) pipiens quinquefasciatus (= C. pipiens fatigans) は、世界の熱帯、亜熱帯に広く分布し、日本では小笠原諸島、南西諸島に生息する別亜種である。フィリピン症の病原虫であるバンクロフト糸状虫を伝播する重要なカである。成虫は休眠することなく一年中みられ、幼虫はアカイエカと同じように汚水域に発生する。

チカイエカ C. (Culex) pipiens molestus は形態がアカイエカとほとんど区別がでないほど似ているが、生態的にはきわめて特徴があり生態品種の一種とも考えられる。成虫は無吸血でも産卵が可能で、休眠を行わず、冬期も吸血活動をする。いわゆる都市昆虫で、ビルの地下室の水たまり、浄化槽、地下鉄の構内に発生しヒトに対して吸血性嗜好が強く、日本の都市での被害は年々増加している。世界中の温帯地域の都市に広く分布する。↑イェカ

イェーガー Werner Wilhelm Jäger (ハルツ・キール) ドイツの古典文献学者。パーゼル (一九二四、キール) (一九二五〜三三) の各大学で教えた。ナチスのドイツ征覇後、一九三六年アメリカに渡り、シカゴ、ハーバード両大学で教えた。最初の著作『アリストテレス形而上学成立史の研究』(一九二二)では、『形而上学』が時期を異にする数段階の諸論稿の集成であることを論証し、主著『アリストテレス』その発展史の基礎づけ(一九三三)では、この研究を倫理学、政治学、自然学の領域にも広げ、アリストテレスの哲学が初期著作断片にみられるプラトン主義から脱皮してアリストテレス固有の哲学にしたいに展開していく過程を克明にたどった。この発展史の研究は、その後長くほぼ一九五〇年代に至るまでのアリストテレス研究の動向を支配したが、今日ではこれを批判または修正する見解もある。ほかにギリシア的教養の成立とそのキリスト教古代への継承

に關する優れた業績を残し、ヒューマニズムの理想を説いて大きな影響を与えた。(加藤信朗) 家数人馬改帳 いえかずじんばあらためちよう

人畜改帳

家形石棺 いえがたせつかん 主として古墳時代後期に、被葬者を埋納した石棺の一種。身が箱形をなし蓋は屋根状を呈す。代表的かつ典型的な屋根には四または六個の縄掛け突起がつき、身には刳抜式と組合せ式との二様がある。石材の産地としては、畿内の二上山、播磨の竜山、吉備の浪形山などが著名。↓石棺 (葛原克人) 間壁忠彦・間壁霞子著『日本史の謎 石宝殿』(一九六六・六興出版)

イェカミキリ「家天牛」(Strumatum longicorne 昆虫綱甲虫目カミキリムシ科に属する昆虫。奄美大島以南の東洋熱帯域に分布し、家屋の木材や家具材などを食害する。体長一五〜二五で、褐色で灰白色の短毛に覆われて光沢が鈍いが、上ばねは粗い顆粒を一面に散布し、前胸背には粗いしわがある。触角は雄では体長の二倍近いが、雌では体長ぐらいである。六〜八月に現れ夜間活動し、材の割れ目などに卵をまとめて産む。幼虫は發育が遅く、成虫になるまで四年もかかり、家の柱や梁などの内部を食害する。熱帯域ではシロアリに次ぐ家屋の害虫である。

胃液 いえき 胃粘膜にある胃腺からの分泌物をいう。胃腺の数は胃全体で約三五〇万といわれており、その分布する部位によって、胃底腺、幽門腺、噴門腺とに分けられる。胃底腺は胃底と胃体部に分布し、胃の全面積の八〇％近い範囲に広がっていて、胃液というのは、ここには、主細胞、旁細胞(壁細胞)、副細胞の三種の細胞があり、主細胞はペプシノーゼンを分泌、旁細胞は塩酸を分泌、副細胞は粘液顆粒を有する。すなわち胃底腺から分泌されるいわゆる胃液は、無色透明で粘り気のある強い酸性を呈するものである。幽門腺は胃前庭部、幽門部に分布し、アルカリ性の分泌液、粘液を分泌する。主細胞、副細胞に似た細胞はあるが旁細胞はない。噴門腺はおもに粘液を分泌する。胃液を採取するには、鼻腔から口より細いゴム管(胃管)を食道を経て挿入し、胃より直接採取する。

〔成分と作用〕塩酸は主細胞に含まれるペプシノーゼンを活性化させ、ペプシンとし、ペプシン